京都市内遺跡試掘調査概報

平成11年度

2000年3月

京都市文化市民局

写真１　平安宮中務省跡出土軒丸瓦

写真２　中久世遺跡土壙３出土石器

ごあいさつ

京都は，世界に誇る数多くの歴史遺産に恵まれた大都市であります。市内の埋蔵文化財包蔵地には，年代ごとに幾層にもわたり積み重ねられ，歴史の重みをもつ遺跡が数多く存在いたします。

このような埋蔵文化財は，我が国の歴史や文化の成り立ちを知ることができる国民共有の貴重な財産であり，将来にわたって保存すべきものであります。

近年，埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等による開発行為は，これらの埋蔵文化財に少なからず影響を及ぼしており，先人が残した埋蔵文化財を引き継いだ私達は，その保存と開発との調和を図りながら，これを後世に伝承していく責務があると考えております。

本報告書は，平成11年度に本市が文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財調査の結果をまとめた概要報告書であります。調査のうち，試掘調査は京都市埋蔵文化財調査センターが実施し，発掘調査及び立会調査は，財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託し実施したものであります。

結びに，今年度の各調査の実施に当たりまして，御理解と御協力を賜りました市民の皆様をはじめ，御指導と御助言を賜りました関係機関の皆様に深く感謝申し上げますとともに，本報告書が京都の歴史を知るための一助として，お役に立てれば幸いに存じます。

平成12年３月

京都市文化市民局長

坪　倉　　譲

例　　言

1　本書は，京都市が文化庁国庫補助を得て実施した平成11年度の京都市内遺跡試掘調査概要報告書である。

なお，本書は平成11年１月から12月までに実施した試掘調査の概要を報告している。

2　試掘調査を実施した総ての地区・所在地・調査日・調査概要・調査面積については，試掘調査一覧表に掲載（34～37頁）している。

3　本文の執筆分担は，本文の末尾に記している。

4　本書に使用した地図は，本市の都市計画局発行の都市計画基本図（縮尺1/2,500）を複製して調整したものを掲載している。なお図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版1 ～13　1/8,000　　図版14～19　1/10,000

5　本書に使用した土壌色名は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』に準じた。

6　遺物整理にあたっては，丸山裕見子・鵜飼隆司・塩崎美保の協力を得た。

7　本書作成，調査実施にあたっては，京都市埋蔵文化財調査センターが担当し，次の機関の協力を得た。

京都市文化市民局文化部文化財保護課・（財）京都市埋蔵文化財研究所

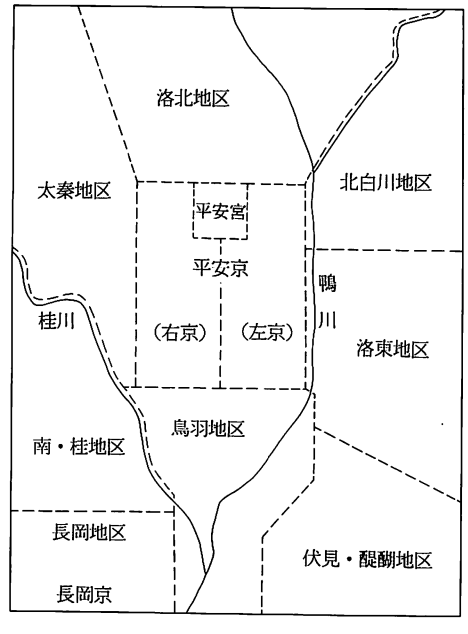


図１　調査地区割図

目　次

頁

Ⅰ　試掘調査の概要 ……1
1　調査の概要 ……1
2　各地区の調査概要 ……2

Ⅱ　平安宮内裏跡・聚楽第跡 ……5
1　調査経過 ……5
2　遺　構 ……5
4　まとめ ……6

Ⅲ　平安宮中務省跡 ……7
1　調査経過 ……7
2　遺　構 ……7
3　遺　物 ……7
4　まとめ ……9

Ⅳ　平安京右京五条三坊六町跡 ……10
1　調査経過 ……10
2　遺構・遺物 ……10
3　まとめ ……12

Ⅴ　平安京右京八条三坊二町跡 ……13
1　調査経過 ……13
2　遺　構 ……13
3　遺　物 ……13
4　まとめ ……14

Ⅵ　北野廃寺跡 ……15
1　調査経過 ……15
2　遺　構 ……15
3　まとめ ……17

頁

Ⅶ　北白川廃寺跡 ……18
1　調査経過 ……18
2　遺　構 ……18
3　まとめ ……20

Ⅷ　白河街区跡 ……21
1　調査経過 ……21
2　遺構・遺物 ……22
4　まとめ ……22

Ⅸ　法勝寺跡 ……23
1　調査経過 ……23
2　遺　構 ……23
3　遺　物 ……24
4　まとめ ……25

Ⅹ　山科本願寺跡 ……26
1　調査経過 ……26
2　遺　構 ……26
3　まとめ ……28

Ⅺ　中久世遺跡 ……29
1　調査経過 ……29
2　遺　構 ……29
3　遺　物 ……30
4　まとめ ……32

報告書抄録 ……38

図 版 目 次

図版 1　平安宮
図版 2　左京北辺・一・二・三条　一・二坊
図版 3　左京北辺・一・二・三条　三・四坊
図版 4　左京　四・五・六条　一・二坊
図版 5　左京　四・五・六条　三・四坊
図版 6　左京　七・八・九条　一・二坊
図版 7　左京　七・八・九条　三・四坊
図版 8　右京北辺・一・二・三条　三・四坊
図版 9　右京北辺・一・二・三条　一・二坊
図版10　右京　四・五・六条　三・四坊
図版11　右京　四・五・六条　一・二坊
図版12　右京　七・八・九条　三・四坊
図版13　右京　七・八・九条　一・二坊
図版14　植物園北遺跡・中の谷遺跡・上総町遺跡・北野廃寺跡・北白川廃寺跡
図版15　白河街区跡・山科本願寺跡・中臣遺跡
図版16　珍皇寺旧境内・法観寺旧境内・法住寺殿跡・史跡名勝嵐山・広沢池遺跡・
　　門田町遺跡・福西古墳群・上久世遺跡・中久世遺跡
図版17　伏見城跡・醍醐古墳群・史跡醍醐寺境内・深草寺跡・西飯食町遺跡・長岡京跡
図版18　上鳥羽遺跡・上鳥羽城跡・鳥羽離宮跡・下鳥羽遺跡
図版19　長岡京跡

挿　図　目　次

頁

図１　調査地区割図……例言
図２　調査位置図 ……5
図３　トレンチ位置図 ……6
図４　２トレンチ北壁土層図 ……6
図５　調査位置図 ……7
図６　トレンチ位置図 ……7
図７　溝１部分西壁断面図 ……8
図８　溝１出土遺物実測図 ……8
図９　平安京条坊図……10
図10　調査位置図……10
図11　トレンチ位置図……11
図12　遺構図……11
図13　出土土器実測図……12
図14　調査位置図……13
図15　トレンチ位置図……14
図16　拡張区南壁土層図……14
図17　土壙１出土土器実測図……14
図18　調査位置図……15
図19　トレンチ位置図……16
図20　推定講堂跡土層堆積状況図……17
図21　調査位置図……18
図22　トレンチ位置図……18
図23　北白川廃寺跡検出遺構・
旧地形対応関係図……19
図24　1トレンチ溝1部分西壁断面図…20
図25　調査位置図……21
図26　トレンチ位置図……21
図27　出土土器実測図……22
図28　調査位置図……23
図29　トレンチ位置図……23
図30　トレンチ南壁断面図……24
図31　出土遺物実測図……24
図32　調査位置図……26
図33　トレンチ位置図及び
土塁断面図……27
図34　調査位置図……29
図35　トレンチ位置図……30
図36　３Ｔ・土壙３部分東壁断面図…30
図37　土壙３出土石器実測図……31
図38　出土土器実測図……32

表　目　次

頁

表１　年次別試掘調査実施件数表 ……1
表２　試掘調査一覧表 ……34～37

写 真 目 次

頁

写真１　平安宮中務省跡出土軒丸瓦 ……巻頭図版
写真２　中久世遺跡土壙３出土石器 ……巻頭図版
写真３　１Ｔ南壁堀状遺構西肩部 ……5
写真４　溝１西壁断面 ……9
写真５　調査地全景（北から） ……12
写真６　建物跡（南から） ……12
写真７　土壙検出状況（南から） ……13
写真８　１トレンチ柱穴１検出状況（北から） ……17
写真９　溝１検出状況（東から） ……20
写真10　３トレンチ全景（東から） ……22
写真11　トレンチ写真（南から） ……24
写真12　土塁全景（南東から） ……28
写真13　土塁全景（南西から） ……28
写真14　土塁全景（西から） ……28
写真15　３Ｔ土壙３・４検出状況（南から） ……31

Ⅰ　試掘調査の概要

1　調査の概要

京都市内には，社寺仏閣など現存文化財が数多く存在するが，それらの大半は平安京遷都以後に造られたものである。しかし、平安京遷都と共に設けられた東寺や神泉苑の一部など，現在までその位置が不変なものを除いて，市内には平安京を偲ぶものは殆ど現存せず，遷都前を生きた人々の生活痕跡を含め，都市の変貌に伴って地中に埋没し遺跡と化してしまった。

現在の京都を生きる我々は，平安京跡ほか長岡京跡・鳥羽離宮跡・六勝寺跡など，都が存続したことに関連して設けられた大規模施設や，歴史の中で人々が永々と営んできた京都盆地内の生活痕跡など，埋蔵文化財が厚く堆積した土地の上で生活しているといっても過言ではない。

これら埋蔵文化財包蔵地で行われる土木工事等の件数は，申請されたものでも１年間で千件を超す状況であるが，そのうち小規模ながら重要遺構が存在する可能性のある場所や，比較的大規模な土木工事の申請があった場合は，遺構残存状況や範囲確認及び発掘調査実施の有無を判断するために，土木工事の開始前に事業者の協力を得て試掘調査を実施し，遺跡の保護に適合した調査を指導している。

この概要報告書は，センターが平成11年１月11日から12月27日まで，ほぼ１年間にわたって実施した試掘調査の結果をまとめたもので，合計86件の試掘調査を実施した。

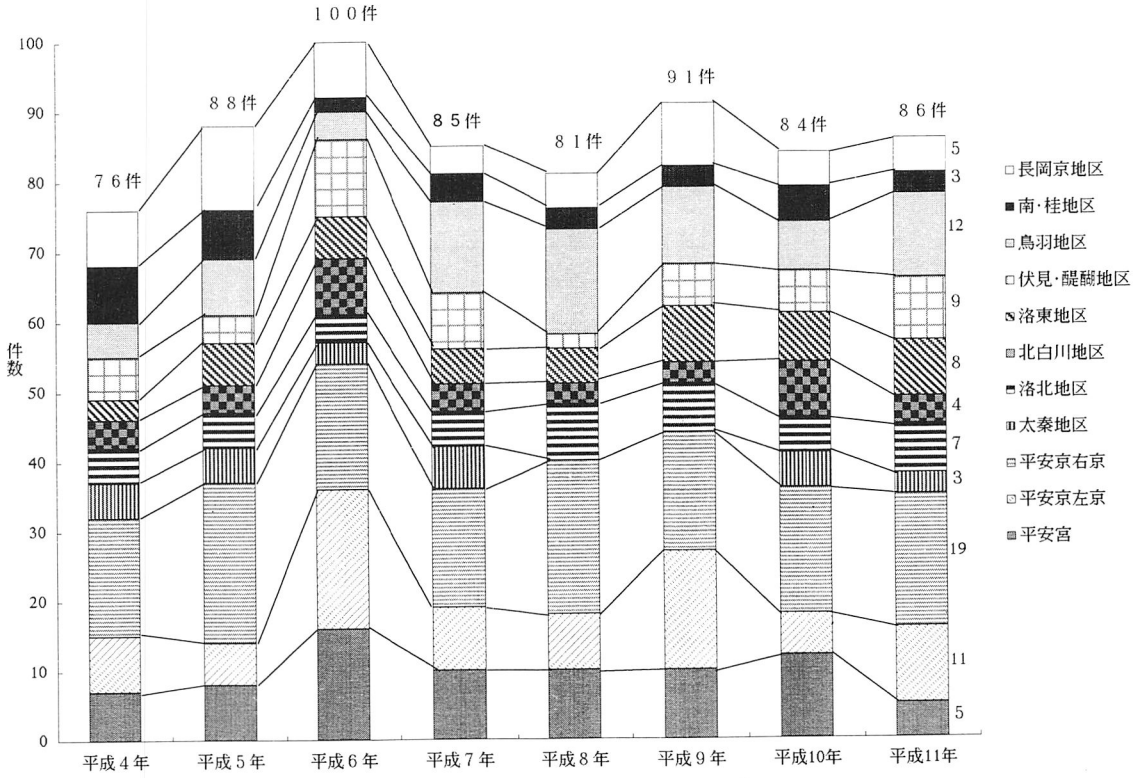


表１　年次別試掘調査実施件数表

2　各地区の調査概要（34～37頁の試掘調査一覧表・図版１～19参照）

ここでは，市内を11の調査地区に分け，平成11年の１年間に実施した試掘調査の成果と，さらにその地区での主な発掘調査の成果（調査機関名は省略）を簡略にまとめてみたい。

平安宮地区

平安宮跡内では，内裏・大蔵省・中務省・朝堂院・左馬寮に推定される５箇所について試掘調査を実施した。内裏跡では，後世の織豊時代に築城された聚楽第の西堀と考えられる溝状遺構や，中務省の北を限る溝（本文掲載）を検出し，設計変更で遺構を保存させたほかは顕著な遺構・遺物は検出されていない。

この地区の発掘調査では，朱雀高校内で平安宮南限の隍ほかが確認され，平安宮正親司跡（仁和小学校）では，後世の大規模な土採り跡が見つかっている。

平安京左京地区

この地区では11件の試掘調査を実施した。

五条四坊十町（下京区柳馬場通綾小路下る永原町）では，浅い場所から室町期の土壙やピットを検出し，九条三坊十町（南区東九条上殿田町）では室町前半の土壙墓・土壙・溝・柱穴を検出したが，その他では後世の攪乱や流路，湿地状の場所も多く，発掘調査は指導していない。

左京域の主な発掘調査は，左京一条四坊八町（京都御所内）で江戸時代中頃の内裏の築地基礎部分を検出，一条四坊九・十六町（京都御苑内の迎賓施設建設予定地）からは，富小路の条坊路面や，江戸時代の道路跡・公家屋敷の園池遺構のほか，甕が七箇所に埋められていた推定能舞台跡など，公家の日常生活を偲ぶ遺物などが多数出土している。四条一坊四町（中京区壬生御所ノ内町）では，朱雀大路東側築地内側溝，四条大路北側溝と内溝，邸宅内の建物・溝・井戸・土壙のほか，邸宅内からの庭石を転用したと見られる暗渠排水遺構も検出された。四条三坊九町（中京区烏丸三条西南角）からは，平安後期の遣水遺構の一部を発見。六条三坊八町（下京区新町通松原下るの修徳小学校）からは，古墳時代後期の溝及び土器類，平安前期建物や石製帯飾り具，中世期の工房・井戸など各時代の遺構・遺物が多数見つかった。七条二坊六町（西本願寺の名勝滴水園庭園）では江戸期の滄浪池の滝組み遺構が明らかになっている。八条二坊十四町（下京区油小路通塩小路下る東油小路町）からは，室町期の完全な犬の骨が折り重なって出土し，９箇所で犬骨（約20体）の土壙が見つかっている。九条二坊十六町（南区西九条北之内町）からは，針小路の路面及び南側溝のほか，平安前期の園池状遺構や，平安後期から鎌倉期の町屋に伴うとみられる泉水や土壙なども検出されている。

平安京右京地区

右京地区では19件の試掘調査を実施した。

四条三坊四町（右京区西院巽町）では四条大路北側溝を検出，五条三坊六町（右京区西院南井御料町）では大型の掘立柱建物を検出した。また史跡西寺跡（南区唐橋西寺町）では，食堂の礎石抜き取り跡とみられる遺構を検出した。八条三坊二町（下京区七条御所ノ内西町）では平安前期の土壙や溝を検出（本文掲載）した。そのほか部分的に遺構を検出した場所もあるが，大半が

後世の攪乱や氾濫堆積，湿地状地形などがあって発掘調査は指導していない。

右京域の主な発掘調査は，一条三坊十六町（北区大将軍坂田町の山城高校内）で，邸宅内の建物や，平安京では初めての四脚門が検出された。二条二坊十六町（中京区西ノ京円町の駅前広場整備）からは，溝状遺構，井戸や井戸状遺構などが検出され，10世紀代の遺物が出土した。三条一坊三町（中京区西ノ京小倉町ほか二条駅周辺区画整理事業）からは，平安前期から後期の園池遺構・井戸・土壙・建物などが見つかっている。また，同区域内（中京区西ノ京栂尾町）の推定穀倉院跡では，２箇所で発掘調査が実施され，朱雀大路西側溝と築地及び内側溝，その西方の現場からは平安時代の溝・井戸・竈や銅製品の鋳造遺構なども見つかっている。

太秦地区

この地区では，史跡名勝嵐山・広沢池遺跡・門田町遺跡の３件の試掘調査を実施したが，いずれも顕著な遺構や遺物は検出していない。

洛北地区

この地区では，植物園北遺跡３・中の谷窯跡１・上総町遺跡２・北野廃寺１の合計７件の試掘調査を実施し，内１件を発掘調査，１件を設計変更するよう指導した。

上総町遺跡に当たる大谷大学からは，柱穴や整地層を確認したため発掘調査を指導した。また，北野廃寺（ヴィアトール教会）では，推定講堂跡の礎石抜き取り跡や整地土を確認したため，遺構保存のため設計変更を指導した。そのほかでは顕著な遺構や遺物は検出していない。

この地区の主な発掘調査は，特別史跡・名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園の庫裏の建て替えに伴って，足利義満の北山殿の礎石建物と方形状の池，北山殿以降の礎石建物，及び北山殿の北御所の東端などを検出している。

北白川地区

北白川廃寺跡２・白河街区跡１・六勝寺跡１の４件の試掘調査を実施した。

北白川廃寺跡では白鳳期の溝，白河街区跡では平安時代後期の井戸及び土壙，さらに法勝寺跡からは造営期の落ち込みとみられる遺構（本文掲載）をそれぞれ検出している。

この地区で行われた発掘調査として，京都大学総合人間学部構内遺跡（京都大学吉田寮北）からは，江戸後期の道路・野壺・柵列，中世の建物跡・石室状施設・溝・井戸，弥生時代の方形周溝墓，縄文時代の旧流路などが検出され多数の遺物が出土した。また，京都大学病院構内遺跡（敷地東南）からは，中世の井戸・集石土壙・柱穴のほか縄文土器なども出土した。京都大学本部構内遺跡（時計台北側）からは，近世の溝，中世の井戸・瓦溜・古代の溝などが検出され，古代の溝からは古墳時代の須恵器蓋杯などが出土している。京都大学医学部北部構内遺跡（薬学部の西）からは，中世の井戸13基のほか，土坑・土器溜・集石遺構なども多数見つかった。

洛東地区

中臣遺跡３・法観寺旧境内１・珍皇寺旧境内１・法住寺殿跡１・山科本願寺跡１，深草寺跡１の合わせて８件の試掘調査を実施した。

山科本願寺跡では，平成８・９年に発掘調査した山科寺内町西南土塁跡の北へ続く部分（残存

不良箇所）の測量を指導し，試掘調査で土壙などを検出（本文掲載）した。

この地区の発掘調査は，方廣寺旧境内（大仏殿）南域に当たる京都国立博物館内で，南面道路（路面）や中世の池状遺構などを検出。中臣遺跡（山科区勧修寺東栗栖野町）からは，６世紀の古墳と墓，７世紀の集落を発見，古墳周溝から須恵器の蓋杯が並べられた状態で見つかった。

伏見・醍醐地区

伏見城跡６件・醍醐古墳群１・史跡醍醐寺境内１・西飯食町遺跡１の９件の試掘調査を行った。

青少年科学センター北の西飯食町遺跡からは，平安末期から鎌倉期の遺物包含層を検出したため発掘調査を指導したが，そのほかでは顕著な遺構・遺物は検出されなかった。

この地区での発掘調査は，醍醐廃寺（伏見区醍醐西大路町ほか市営住宅建設）で，醍醐寺の子院の可能性がある平安から鎌倉期の石敷遺構や整地層などが検出された。

伏見城跡（伏見区桃山町立売）からは，立売通りの北側にあった町屋や井戸，立売通りの路面などが検出された。また伏見区永井久太郎ほかの上板橋通り道路改良工事現場からは，石垣・石組み・犬走りなど，伏見城下大名屋敷（徳川時代）を限る遺構や道路が検出されている。

鳥羽地区

鳥羽離宮跡が９件，上鳥羽城跡１件・上鳥羽遺跡１件・下鳥羽遺跡１件の12件を試掘調査し，その内１件を発掘調査指導した。

鳥羽離宮（伏見区竹田浄菩提院町）の東殿（泉殿）跡からは土壙状遺構が検出されたため，発掘調査（国庫補助）を指導した。そのほかでは顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

この地区での発掘調査は，安楽寿院境内で本御堂跡の礎石抜き取り跡の根石などを確認。下三栖遺跡（伏見区横大路下三栖辻堂町の新油小路道路）では，竪穴住居跡が初めて検出された。

南・桂地区

この地区では，上久世遺跡１件・中久世遺跡２件の３件の試掘調査を実施し，内１件を発掘調査，１件を設計変更するよう指導した。

中久世遺跡（南区久世中久世町四丁目）では，竪穴住居跡や掘立柱建物跡などを検出したため発掘調査（国庫補助）を指導した。

この地区での発掘調査は，大藪遺跡（南区久世大藪町・殿城町の街路建設）からは，長岡京期の建物・井戸・溝・柵，室町時代の建物や堀など居館とみられる遺構も検出されている。さらに14世紀の鏡の鋳型が８枚重なって出土し，鋳造過程を知る手掛かりとなる遺物として注目される。

長岡京地区

長岡京跡４件・福西古墳群１件の５件の試掘調査を行った。

長岡京跡では，推定左京東三坊大路の西側溝や時期不明の溝などを検出したが，全体に遺構残存状況は希薄で，いずれの試掘調査結果からも発掘調査の指導は行っていない。

この地区の発掘調査は，長岡京跡（南区東土川町の河川拡幅工事）からは，左京東三坊第二坊間小路西側溝・東側溝などが検出されている。（梶川敏夫）

Ⅱ　平安宮内裏跡・聚楽第跡　No.1

1　調査経過

調査地は，上京区出水通千本東入西神明町335-1及び弁天町311-1で，出水通の北側の路地裏になる。当該地は平安宮内裏内郭回廊の北西隅に推定されるとともに，豊臣秀吉の築いた聚楽第跡の西端付近にも想定されていた。ここで事務所ビルが建設されることになり，回廊遺構及び聚楽第の遺構の確認を目的とした試掘調査を平成11年３月26日に行った。

調査では，内裏内郭回廊の遺構を確認することはできなかったが，聚楽第跡に関しては，西堀の西側肩口と考えられる遺構を検出することができた。

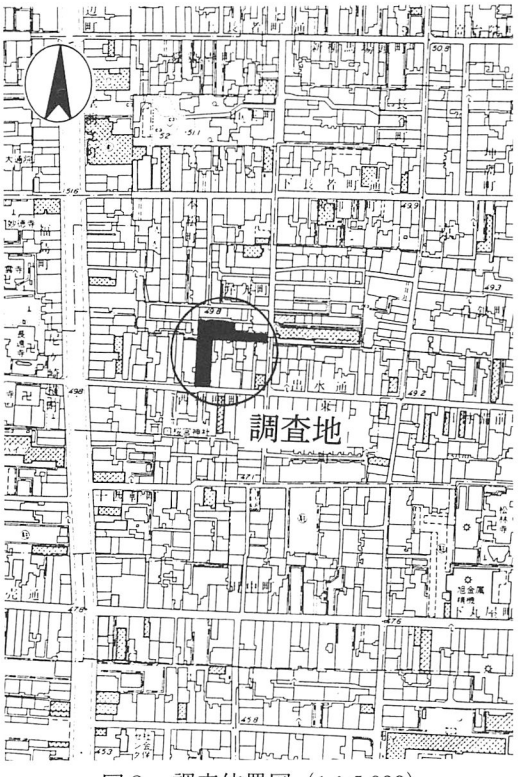


図２　調査位置図（1：5,000）

2　遺　構

内裏内郭回廊の北縁を検出する目的で敷地の南端に南北方向の１トレンチを設定した。地表下１ｍで地山の聚楽土を検出したが，東半部が深く落ち込んでいた。この落ち込みの性格を探るために，敷地北側に東西方向の２トレンチを設定したところ，その延長部分を確認することができた。敷地内の遺構残存度を探るために２トレンチを西側に延長したが，近世以後の大規模な土取りにより，地山面である聚楽土を含め完全に消失していた。

堀状遺構　両トレンチで確認した落ち込み遺構の肩口は整然と南北に連なっており，堀状の遺構と考えた。土屋町通の西端からこの遺構の肩口までの距離は約26ｍ，検出範囲内では，現地表から2.2ｍ以上の深さがある。断面の形状から，肩口から東に約70cmで急激に角度を増し，深くなっていく。

写真３　１Ｔ南壁堀状遺構西肩部

埋土は大きく２層になっており，上層は黄色泥砂，下層は黒褐色泥砂が堆積しているが，時期を確定する遺物は検出できなかった。しかし，青磁片を含んだ土壙を切っており，中世以降の時期と考えられる。

土壙１　暗褐色泥砂を埋土とする径約70cmの土壙で，堀状遺構に切られている。埋土中から青磁片等が出土している。

３　まとめ

堀状遺構を検出した当該敷地の東半分は，現況地面でも東の土屋町通から約70cm低く，大規模な土取りの行われている敷地内の西半分からも20cm以上低い。興味深いことに堀状遺構の西肩部の延長上で現在の宅地割りが直線的に並んでおり，そのラインは南に150m，北に115m程度延びている。この延長上の南端部である土屋町通新出水付近は現地周辺の踏査結果[1]から最も低くなっており，従来から南堀と推定されてきた松林寺境内のラインと繋がる。

また，土屋町通（新出水通～中立売通間）自体も西の千本通に対して一段低くなっている。

以上の結果から，今回検出した遺構は土屋町通を含めると推定で幅30m程度の規模になり，聚楽第跡の西堀と考えることが妥当であろう。

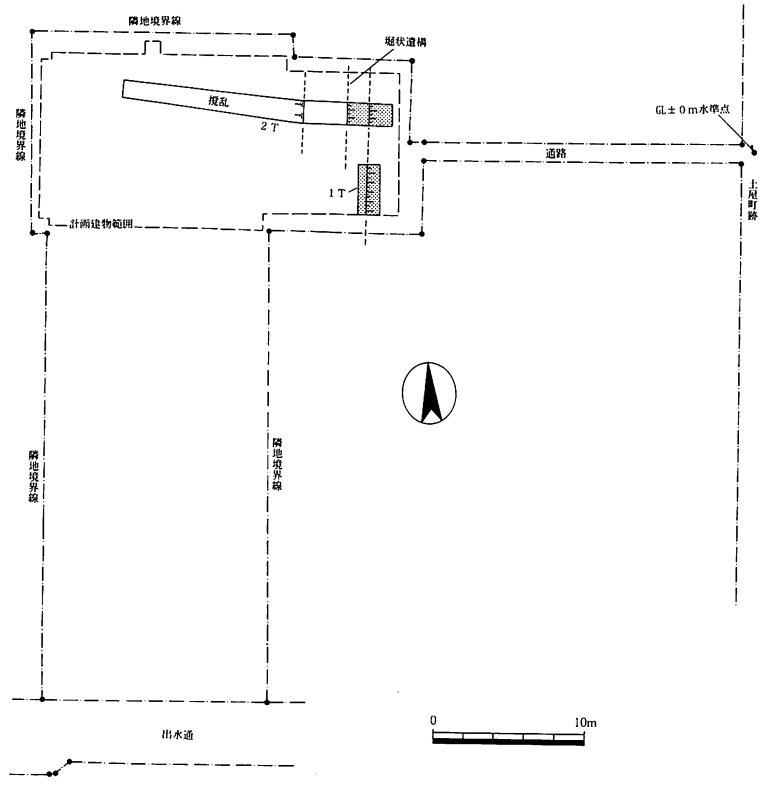


図３　トレンチ位置図（1：500）

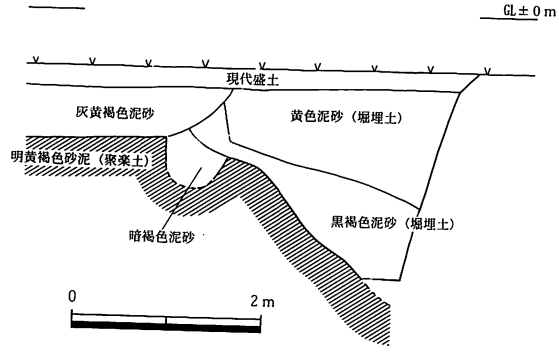


図４　２トレンチ北壁土層図（1：80）

（馬瀬智光）

註

1）土屋町新出水通付近は現在でも周囲から一段低いが，西田直二郎が聚楽第に関する遺跡として「土屋町通稲荷祠附近ノ低地」の名で大正８年に報告している。西田は，当該地は報告の十数年前まで濠状の池があり，小児がそこで泳いでいたという住人の発言を記している。

西田直二郎　「聚楽第遺址」『京都府史蹟勝地調査會報告』第１冊（京都府）　大正八年　１～18頁の15頁参照。

Ⅲ　平安宮中務省跡　No.22

1　調査経過

調査は上京区下立売通千本東入中務町490-50における個人住宅建設に伴うものである。平安宮跡一帯は壁土に適したいわゆる「聚楽土」の採取のため，必ずしも遺構の残りが良くない場合が多いが，その中にあって中務省跡は珍しく遺存の良好な地域の一つである。特に今回の調査地の２軒西隣では中務省の北限築地外側溝が検出されており[1)]，当該地においてもその延長が検出される可能性が高いと判断されたため，計画建物はほとんど掘削を伴わない工法ではあったが，施主のご厚意を得て平成11年11月19日に試掘調査を行った。

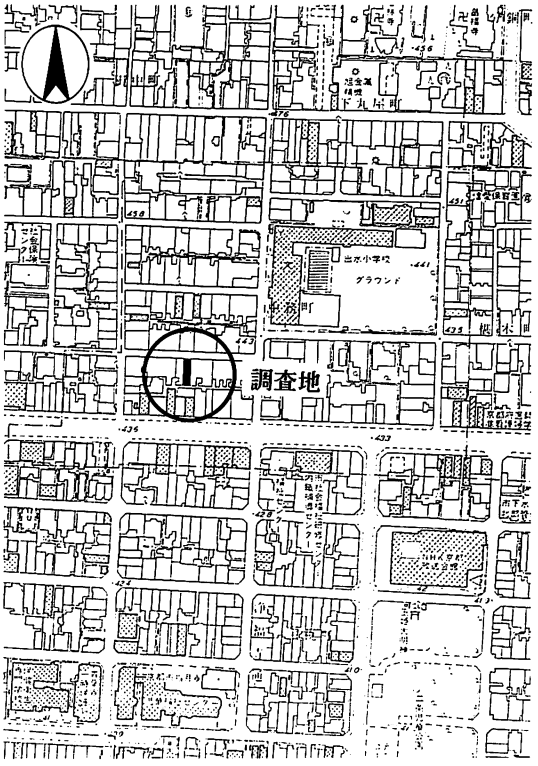


図５　調査位置図（1：5,000）

2　遺　構

当該敷地の南寄りにトレンチを設定して調査したところ，予想通り築地外側溝と思われる東西溝を検出した。この溝は断面が逆台形を呈し，幅2.3m，深さ1.2mを測る。聚楽土の地山上に２層の整地土を盛った上から掘り込まれており，検出面は前面の椹木町通路面よりマイナス80cmである。溝の埋土からは，軒丸瓦・軒平瓦・土師器・凝灰岩片などが出土した。この南側には犬走りと築地本体があったと思われるが，それらの痕跡は見出し得なかった。一方，北側は内裏との間の路面で，礫敷きであることが先の調査で判明しているが，やはり今回のトレンチ内では確認できなかった。ただ，溝の底に拳大の礫が多く入っていたのは，この礫敷きに由来するものかもしれない。また，この溝に切られる形でもう１条の浅い溝が南側にあるが，これは整地土によって埋められている。

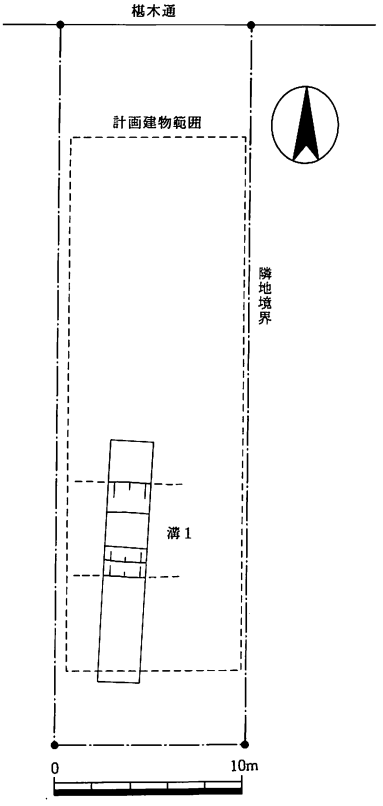


図６　トレンチ位置図（1：400）

3　遺　物

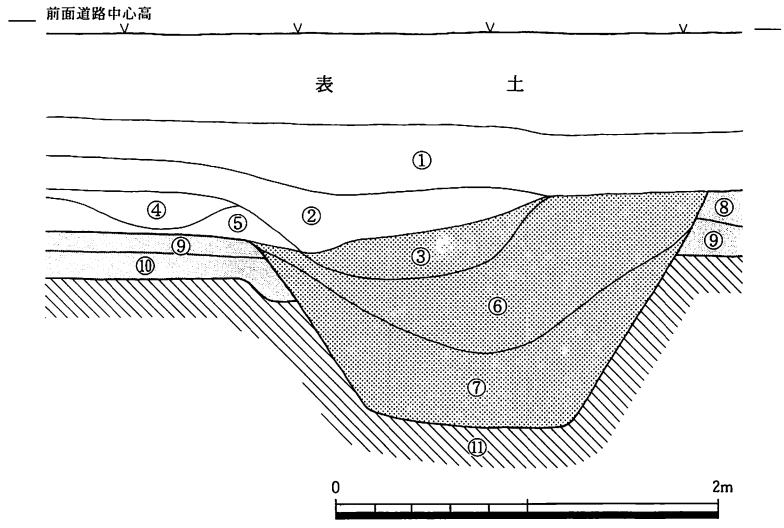
復元可能な遺物はすべて溝埋土中から出土したものである。

１は土師器の椀Ａで，復元口径11.7cm・器高４cm弱を測る。

外面調整はｃ手法であるが，ケズリの単位はやや粗く，各所にユビオサエの痕跡をとどめる。内面は丁寧にナデられている。小森・上村編年[2]のＩ期新段階に相当する。⑦層直上出土。

２は須恵器の杯Ｂである。⑥層出土。

３は軒丸瓦で②層から焼土とともに出土した。牡丹様の肉厚な花弁をもつ四葉蓮華文で，間弁も太く，外区内縁には珠文を巡らす。中房は小振りで半球状に盛り上がり，弁区との間に圏線を置く。蓮子は１＋５に配する。高い半球状の中房は，平安期の瓦としてはやや異質である。縦置型一本作りで，裏面には筒部の切り残しと布目が残る。裏面は瓦当面に対して大きく傾いており，そのため天の位置では瓦当厚が極端に薄くなっている。恐らくは，「杵型」の広端を上にして笵を打ち込む手順で作られ，その際に笵を正しく水平に置かなかったためと思われる。側面には大振りの格子タタキを施す。今のところ同笵例は見当たらないが，南西の中務省内における調査で同文の瓦の破片が１点出土している[3]。



①2.5Y 4/3 オリーブ褐色砂泥　②2.5Y 4/4 オリーブ褐色砂泥（瓦・焼土含む）③5Y 3/1 オリーブ黒色砂泥　④5Y 3/1 オリーブ黒色砂泥（瓦多量に含む）⑤5Y 4/2 灰オリーブ砂泥　⑥2.5Y 2/2 オリーブ黒色砂泥（瓦・土師器・小礫多く含む。凝灰岩片含む）⑦10Y 3/1 オリーブ黒色砂泥（瓦・礫含む）　⑧2.5Y 3/2 黒褐色砂泥（整地土）⑨2.5Y 4/2 暗灰黄色泥土（整地土）　⑩2.5Y 4/4 オリーブ褐色泥土（整地土）⑪10YR 5/6 黄褐色粘土（地山）

図７　溝１部分西壁断面図（1：40）

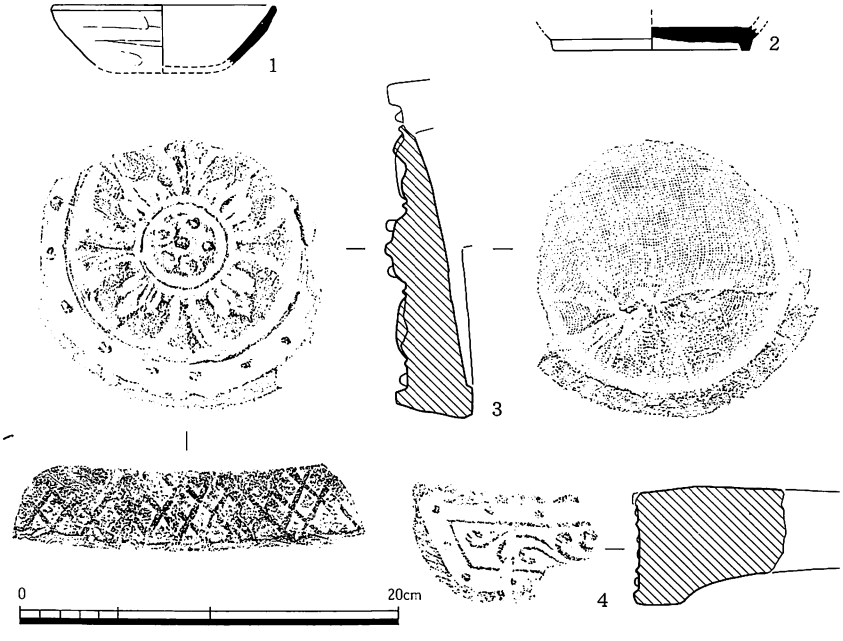


図８　溝１出土遺物実測図（1：4）

４は長岡宮式軒平瓦で，7757Ａと同笵と思われる。7757ＡにはＡａ～Ａｃの３種類があるが[4]判別の決め手となる部分が欠損しているため，どれに相当するかは不明である。曲線顎で凸面は丁寧にナデられているが，顎面の一部に縦位の縄タタキが残り，瓦当面にも施文に先行する縄タタキが認められる。平瓦部は厚さ４cmで，同型式の瓦ではかなり厚い部類に入る。⑦層出土。

4　まとめ

当該地では調査前の推定通り，中務省北限築地の外側溝を検出することができた。溝の下層から長岡宮の瓦が出土したことは，平安宮でも主要官衙地区で再利用瓦が顕著であるという従来の知見[5]に合致する。また，下層遺物が古く，上層が新しいということから，溝は中務省の造営に伴って掘削された後は大きな溝さらえや再掘削もなく，徐々に埋没していった状況が伺われる。

写真４　溝１西壁断面

（堀　大輔）

註

１）前田義明「平安宮中務省(1)」『平安京跡発掘調査概報 平成３年度』（京都市文化観光局）1992年

２）小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第３号（財団法人京都市埋蔵文化財研究所）1996年

３）前田義明「平安宮中務省」『平安京跡発掘調査概報 昭和61年度』（京都市文化観光局・財団法人京都市埋蔵文化財研究所）1987年　なお，軒丸瓦の観察および同文瓦の存在について，財団法人京都市埋蔵文化財研究所の鈴木久男氏にご教示をいただいた。

４）藤田さかえ「軒平瓦」『長岡京古瓦聚成』（向日市教育委員会）1987年

５）鈴木久男「平安京右京七条一坊の軒瓦について」『同上』

Ⅳ　平安京右京五条三坊六町跡　No.6

1　調査経過

調査地は高辻通と佐井西通との交差点の北西にある工場敷地内である。平安京の条坊復原では，右京五条三坊六町の南東隅に位置する。高辻通を挟んだ南側の同工場敷地内（五条三坊五町）では平成２年と３年にそれぞれ試掘調査を行い，平安時代の前～中期にかけての園池を伴う邸宅跡を検出し，設計変更による遺構保存の措置が執られている。

今回，工場敷地内に事務棟・工場棟の２棟の新築工事計画が立てられ，まず，工場棟建設予定地の調査を平成11年１月18日に実施した。次いで事務棟建設予定地の調査を３月29日に行ったところ平安時代の南北に並ぶ柱穴や東西溝等を検出した。このため設計業者と基礎部分の設計変更について協議を行った結果，建物内部の独立基礎以外についてはある程度遺跡が保護されるまで変更可能となった。そこで工事によって壊される部分を中心に，当初設定した南北トレンチの東側を約３m拡張するような形の調査区を設けて再調査を平成11年４月13日から15日まで行うこととした。なお掲載した遺構図は当初の試掘トレンチと再調査のトレンチを図上で合成したものである。

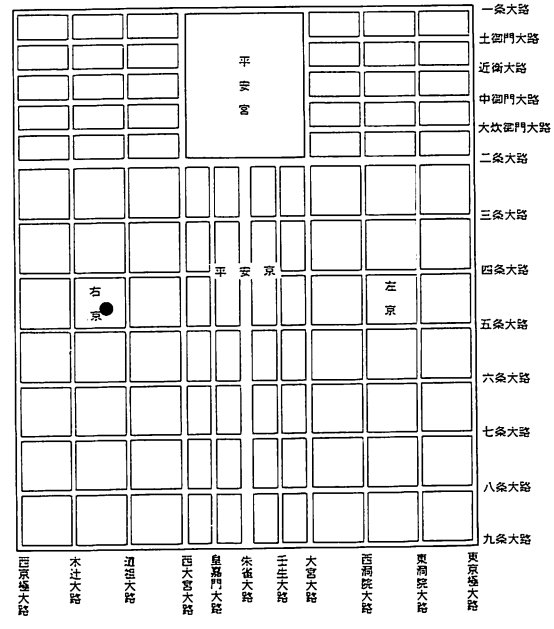


図９　平安京条坊図

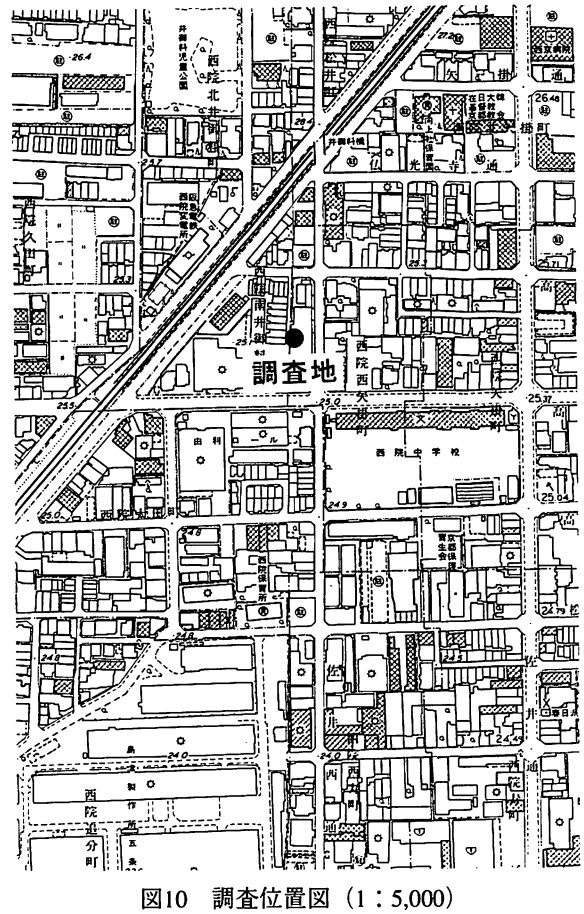


図10　調査位置図（1：5,000）

2　遺構・遺物

調査地の基本的な層序は，工場用地の盛土の下に耕土・床土・灰色粘質土・青灰色粘質土（ベース）・灰色砂礫が堆積する。遺構検出面は青灰色粘質土上面であるが，この粘質土は所によっては灰白色や黄褐色に色調が変化し，おおむね地表下１mに水平に堆積している。なお，

本来の遺構成立面は，調査した柱穴の掘方が浅いことからもっと上で，耕作土面と重なっていたと思われる。

検出した遺構は柱穴・溝・土壙などで，この内柱穴・溝などは平安時代前期に属するものと考えられ，土壙についてはそれらより時代が新しいものと思われる。

溝は幅40cmほどの東西溝でトレンチの中央部で検出した。深さは7cmと浅いがこれは既述のとおり上部が耕作などで既に削平されているためである。

柱穴群はトレンチの南端を除いたほぼ全域で検出したが，建物として復原可能なものは北寄りの柱穴群で他は調査範囲も限られていることもあり建物や施設として把握することは出来なかった。

トレンチの北寄りで検出した10個の柱穴群は掘立柱建物として復原可能である。建物は南北棟で母屋の桁行は4間以上あり，西側と南側に庇を備え，四面庇の可能性もある大型住居である。柱間寸法は母屋，庇とも約2.4m（8尺）の等間である。柱穴の掘方は方形で一辺60～80cmあり，柱の直径は30～40cmに推定でき，柱穴内に根石を入れるものもあった。掘方の深さは平均25cmと浅く，やはり上面が削平されている。

遺物は柱穴や排土中から平安前期の土師器・須恵器・瓦片などがコンテナ1箱分ほど出土したが，磨耗したものや破片が大半を占め，どれも一括性には乏しい。掲載した土器の内，須恵器壺（1）と須恵器鉢

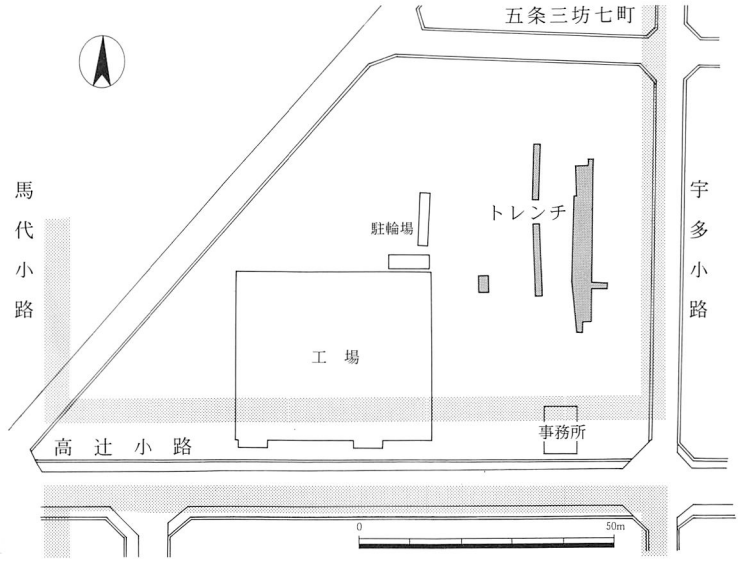


図11　トレンチ位置図（1：1,500）

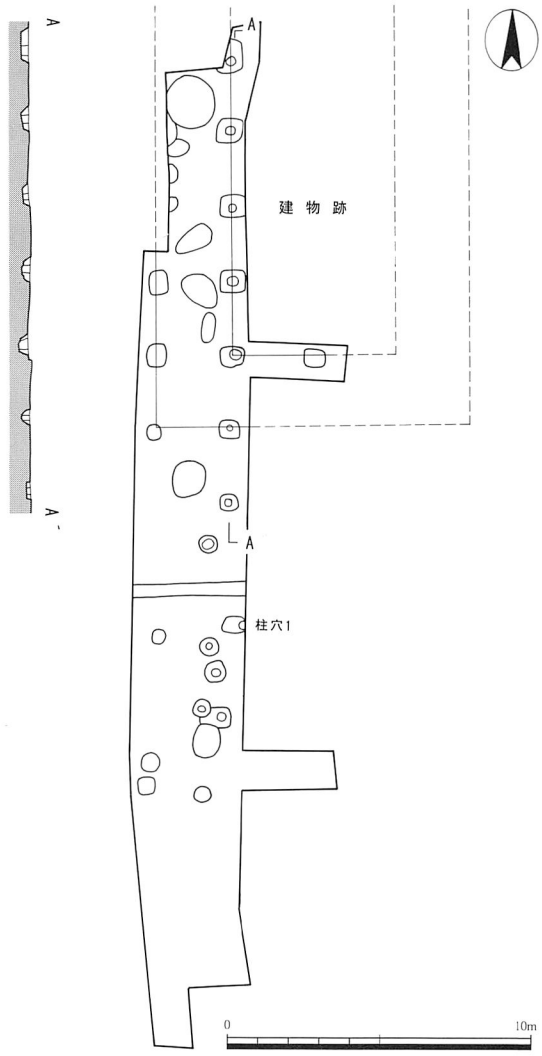


図12　遺構図（1：250）

(3) は試掘調査時の重機掘削中に出土したものであるが，本来は何らかの遺構に伴うものであったと考えられる。須恵器杯蓋 (2) はトレンチ南寄りで発見した柱穴から出土した。

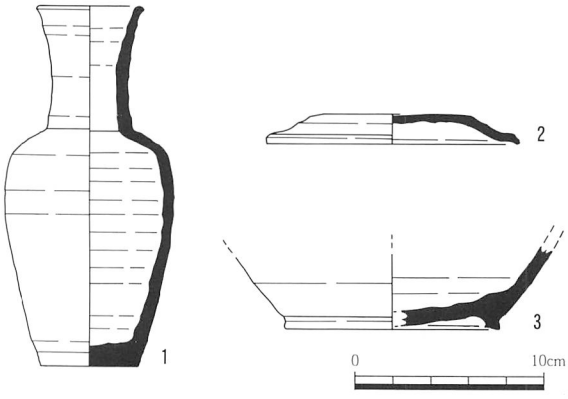


図13　出土土器実測図（1：4）

3　まとめ

今回の調査では，平安時代前期の掘立柱建物１棟を検出したが，それ以外の施設の有無などについては限られた調査であったため，よく判らないままに調査を終了した。前述のごとく高辻通りを挟んだ南側の同工場敷地内（五条三坊五町）では，発掘調査には至っていないが園池を伴う邸宅跡を確認し，東隣の西院中学校内（五条三坊四町）の発掘調査でも同様に園池を伴う邸宅跡を確認している。今回も五条三坊六町で建物跡を発見したことにより，当該地周辺では平安時代においてかなり宅地化が進んでいたエリアと推測される。

（長谷川行孝）

写真５　調査地全景（北から）

写真６　建物跡（南から）

V　平安京右京八条三坊二町跡　No.41

1　調査経過

調査地は下京区七条御所ノ内西町19番地で，西塩小路通の北側に面し，佐井通と西高瀬川の中間に位置している。平安京の条坊では右京八条三坊二町の南中央部に想定されており，敷地内に八条坊門小路の北築地心が通る。山田邦和編の『平安京邸宅一覧表』によると，平安時代前・中期の占有者は不明で，後期になると雲居号院御領とされている。

当該地で工場建て替えに伴う試掘調査を平成11年８月12日に行った結果，八条坊門小路北側溝等の条坊関連の遺構を検出することはできなかった。しかし，調査事例の少ないこの地域で平安時代前期の土地改良と占有を確認したことは非常に重要である。

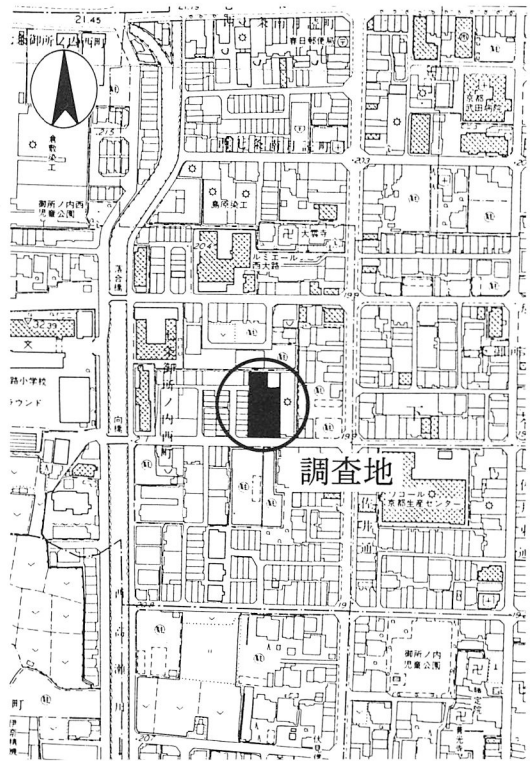


図14　調査位置図（1：5,000）

2　遺　構

整地　この付近はかつて湿地帯であり，地表下90cm以下には厚い青灰色の粘土層が堆積している。この粘土層は軟弱で建物等を構築するには不向きであったとみえ，大規模な整地が行われていた。整地は小礫を含む灰色砂泥層とにぶい黄色砂泥層をパッチワーク状に投入して一定の硬度を保たせたものであった。整地層の厚さは25cmから30cmである。平安時代前期の遺構はこの整地層の上面で検出した。

土壙１　長径1.5m，短径1.3m，検出面からの深さは４cmから20cmである。溝２によって切られている。埋土には平安時代前期の遺物が含まれていた。

溝２　幅50cm，延長3.1m，深さは36cmであった。埋土中の遺物から判断すると時期差はほとんど認められない。

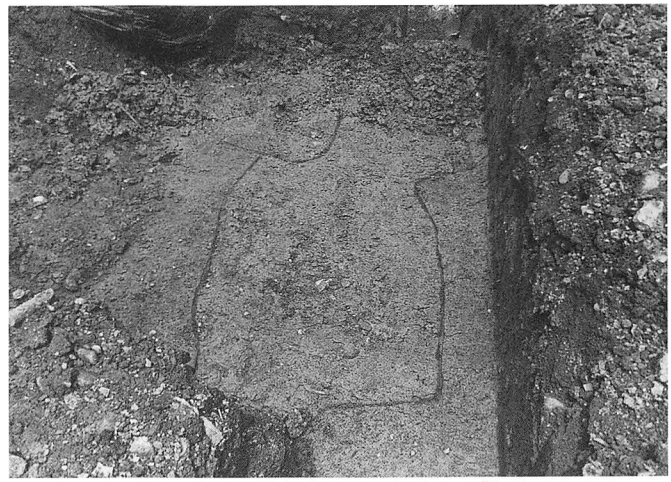


写真７　土壙検出状況（南から）

3　遺　物

土壙１出土遺物　図化したのは４点だが，258点の破片を認めた。その内容は，瓦片14点，須恵器甕５点，同小

壺７点，同短頸壺1点，同坏２点，同胴部片76点，土師器高坏４点，同高台坏２点，同坏19点，同甕18点，同胴部片107点，緑釉単彩羽釜１点，黒色土器椀２点となる。

図17の１・２は土師器皿及び坏で外面全体にヘラ削りが施されている。須恵器坏Ａである３は底部ヘラ切りで，体部の開きが弱い。須恵器坏蓋の４は高い宝珠形つまみをもち，天井部は平坦である。

溝２埋土出土遺物　26片出土し，内21片は須恵器で，土師器は４点で供膳形態はなく，甕３点と鍋１点であった。他には緑釉単彩陶器１点が出土している。須恵器では小壺，皿，短頸壺，坏，鉢が認められる。

4　まとめ

調査地は，平安時代後期に「雲居院御領」であったとされている。院は白河法皇，雲居は平安時代前期に現在の東山区下河原町に参議菅野真道が建立した雲居寺を示すと考えられている[1]。しかし，今回の調査では平安時代後期の遺構・遺物は認められず，８世紀末から９世紀前半頃[2]の遺構とそれに伴う整地が検出された。当地の御領としての使用形態は解決できなかったものの，平安時代前期の段階で土地利用のために湿地帯を大規模に改良していたことが明らかになった。

（馬瀬智光）

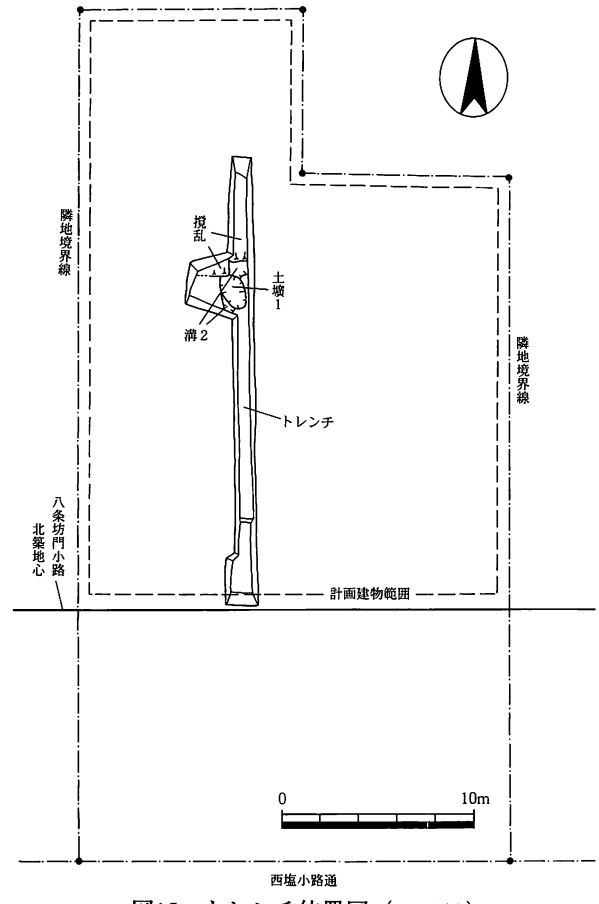


図15　トレンチ位置図（1：400）

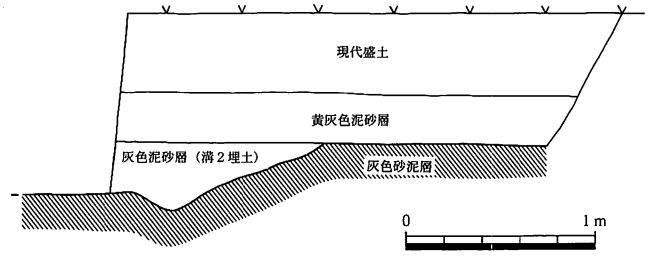


図16　拡張区南壁土層図（1：40）

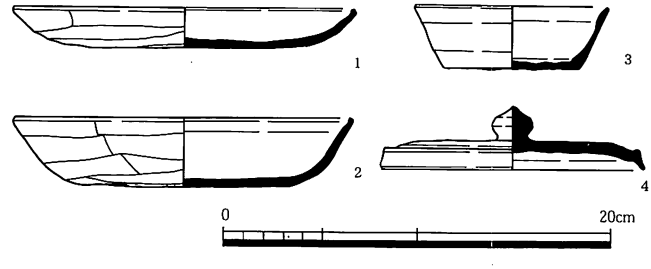


図17　土壙１出土土器実測図（1：4）

註

1）『平安京提要』（（財）古代学協会・古代学研究所編　1994年）の354～355頁，『平安京時代史事典』（（財）古代学協会・古代学研究所編　1994年）の264～265頁参照。

2）小森俊寛・上村憲章　「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第３号（財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1996年　187～271頁）の200～206頁及び表５，図２参照。

Ⅵ　北野廃寺跡　No.52

1　調査経過

調査地は北区北野白梅町５番地で，笹屋町通西大路の交差点南西側の駐車場である。この付近は北野廃寺跡の包蔵地内に含まれており，広隆寺の前身である蜂岡寺や平安時代の野寺常住寺に推定されてきた。昭和56年に「野寺」と記された墨書土器が出土したことで，野寺の寺地であったことはほぼ確認されている。また，「秦立」等の墨書土器から秦氏とのつながりの深さもうかがえる[1]。しかし，広隆寺旧境内と北野廃寺跡で出土した瓦の比較分析から，蜂岡寺と北野廃寺は同一の寺院ではないとの説[2]もあり，この遺跡の性格は今なお混沌としている。

北野廃寺跡では過去に16次の発掘調査が行われているものの，検出された伽藍遺構は瓦積基壇の東半部とこれに取り付く回廊のみである。

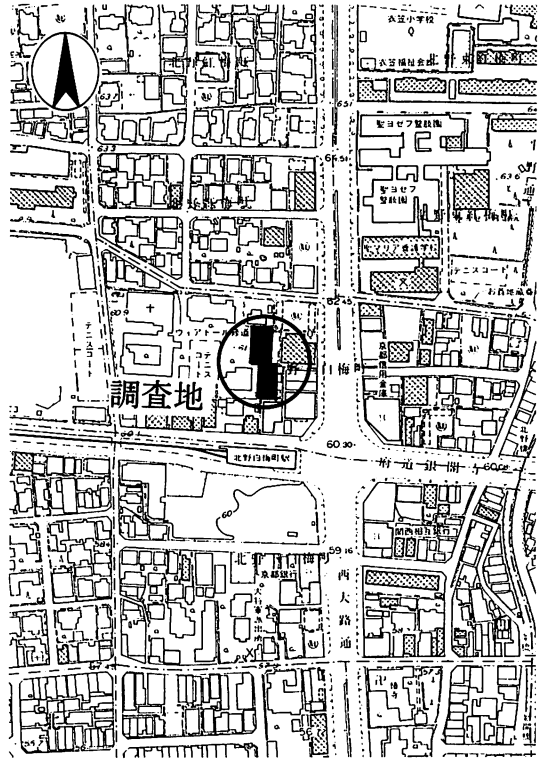


図18　調査位置図（1：5,000）

今回，瓦積基壇の推定西半部を含んだ当該駐車場で立体化が計画されたため，平成11年８月５日に試掘調査を行った。遺跡の破壊を最小限におさえるため施工主及び設計者と協議を行い，独立基礎に変更の上，基礎の掘削深度も試掘調査の遺構検出レベルに合わせた変更を指導した。

2　遺　構

建築面積587m²の２層式立体駐車場は50箇所の独立基礎が予定されていたが，そのうち調査区として16箇所を選択した。調査区の選定は，昭和52年度（1977）に行われた２次調査[3]で検出された基壇建物１，掘立柱建物３，掘立柱建物４及び回廊の推定範囲を参考にした。１～14トレンチ，並びに16トレンチは1.6m×1.6m，15トレンチは1.4m×1.8mの規模であった。

基壇建物１　　２次調査報告では基壇上の柱間の間隔から庇を含め東西７間，南北４間の建物跡を推定している。周縁に瓦積を有した基壇の規模は東西25.95m，南北17.6mとしている。さらに建物は二時期あり，当初のものを瓦葺き，再建のものを檜皮葺きと考え，野寺の講堂跡ではないかと推定している。

推定範囲内で７箇所のトレンチ（２Ｔ・３Ｔ・７Ｔ・11～13Ｔ・16Ｔ）を設定した結果，北側庇部分の桁行上で２基の礎石抜き取り穴（Ｐ２・Ｐ３）を確認した。Ｐ２はトレンチ内で南北長65cm，東西長75cmで抜き取り穴全体の約４分の１に相当すると考えられる。内部には根固め石

とみられる長径38cmの石が残存していた。

Ｐ３はトレンチ内では南北60cm，東西56cmを測る。礎石抜き取り穴の南西隅部分とみられる。

掘削深度の深い11Ｔと13Ｔの断面観察から，地表下50cmで硬い焼土層を確認した。焼土層の下層には５cm～10cmの単位で複数の層が堆積し，地表下80cm前後の締まった黒褐色砂泥層に至る。この黒褐色砂泥層までを版築状に積み上げられた基壇土と考えた。

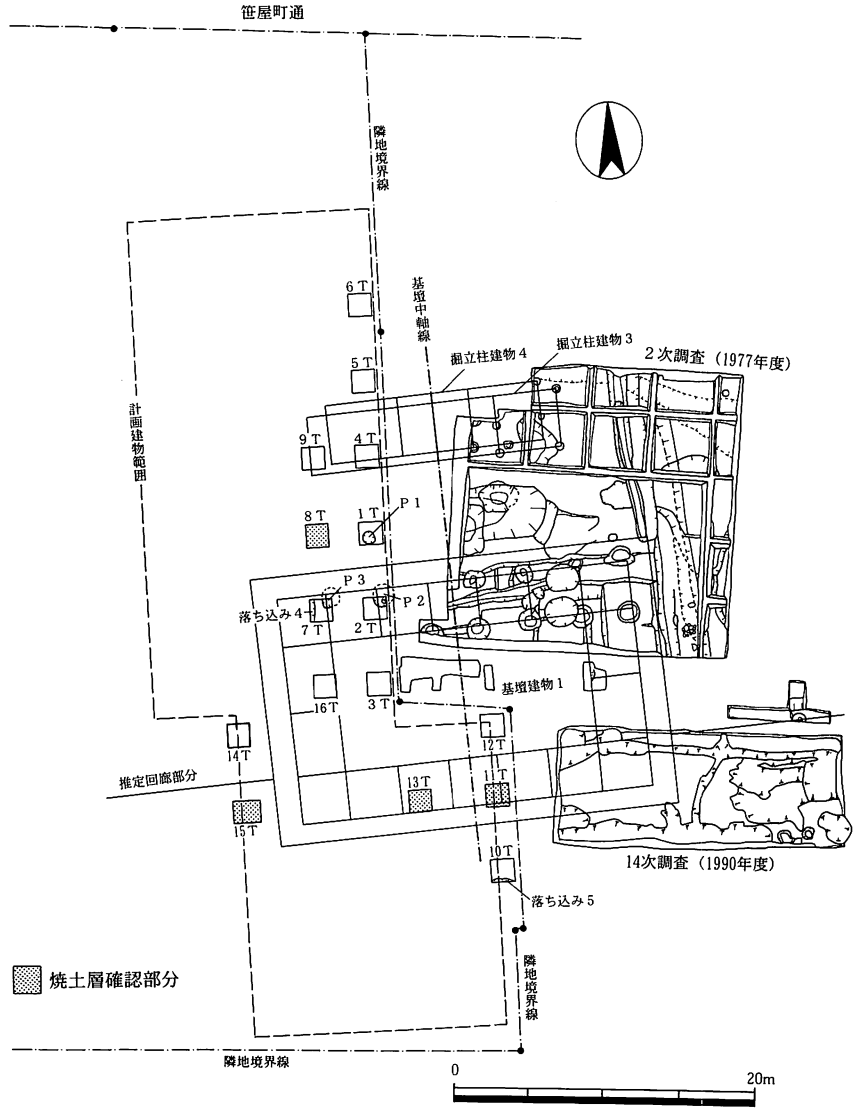


図19　トレンチ位置図（1：500）

掘立柱建物３・４

掘立柱建物３は南北１間，東西４間の東西棟，掘立柱建物４は南北１間，東西３間の東西棟で，両方とも建物の軸線が基壇建物と一致しており，僧坊ではないかと報告されている。想定範囲内に２箇所（４Ｔ・９Ｔ），近接して１箇所のトレンチ（５Ｔ）を設定した。基壇建物部分に比べ中世以降の包含層が厚く，その下層に非常に締まった黄褐色砂泥層が存在する。この整地層は現地表下76cm～88cmで検出された。しかし，掘立柱建物に関連する柱穴等を確認することはできなかった。

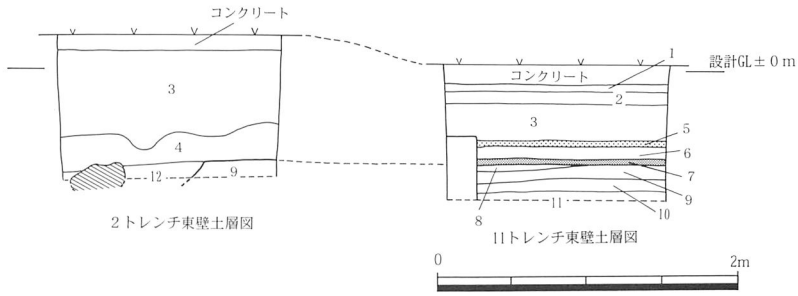
回廊部分　２次調査で基壇建物の母屋南桁行の延長上に基壇及び礎石抜き取り穴１基が検出されているが，後世の削平により規模は不明である。回廊部分に近接して２箇所のトレンチ（14Ｔ・15Ｔ）を設定した。14Ｔでは地表下44cmで４Ｔ等で確認したのと同じ締まった黄褐色の整地層が認められた。一方，15Ｔでは地表下72cmで焼土層を確認した。両トレンチとも礎石抜き取り穴や基壇等を確認することはできなかった。

その他の遺構　１Ｔでは４Ｔ等と同じ締まった整地層を地表下73cmで確認した。この整地層上に直径80cmの柱穴（Ｐ１）が認められた。

落ち込み４は７Ｔ西端で確認した遺構で，灰褐色砂泥を埋土にもつがその性格は不明である。

落ち込み５は，基壇建物１の前方に設定した10Ｔ南端で検出した。２次調査では基壇に沿って土取穴が複数検出されており，基壇造営に必要な土砂を採取した痕跡と報告されている。この落ち込みも同様の性格をもつかもしれない。

その他，１Ｔ・４Ｔ等で確認した締まりのある黄褐色整地層は基壇周辺のトレンチの全てで観察できる。



1　アスファルト
2　バラス
3　現代盛土
4　暗灰黄色泥砂層（小礫・瓦細片含む中世整地土）
5　焼土層
6　黄橙色泥砂層（黒色土をブロック状に含む）
7　黒色泥砂
8　にぶい黄橙色砂礫
9　黒褐色泥砂（黒色泥砂をブロック状に含む）
10　黒褐色砂泥（小礫・土器片を含む）
11　黒色泥砂
12　黄灰色泥砂（礫・炭・瓦片を含む）

図20　推定講堂跡土層堆積状況図（1：50）

写真８　１トレンチ柱穴１検出状況（北から）

3　まとめ

個々のトレンチの掘削面積は非常に小さく遺構や整地層の性格を推定するのは困難であった。しかし，特徴的な黄褐色砂泥の整地層が広がること，２次調査報告の復元案通りの場所で基壇建物１に伴う礎石抜き取り穴が２基検出されたこと等，基壇建物の構造の再確認ができるとともに，14次調査地点[4]と異なり，当該敷地は遺構の残存度が良好であることがわかった。今後は大型の既存建物のない西側隣接地を中心に伽藍の広がりを確認していかなければならない。

（馬瀬智光）

註

1）関口力・高橋潔　「山背国時代の寺院」『平安京提要』（（財）古代学協会・古代学研究所編　1994年　435～454頁）の440～443頁を参照。

2）網　伸也　「広隆寺創建問題に関する考古学的私見」『古代探叢、－滝口宏先生追悼考古学論集－』（滝口宏先生追悼考古学論集編集委員会･早稲田大学所沢校地埋蔵文化財調査室編　1995年　477～496頁）

3）梅川光隆　『北野廃寺跡－ハイツねむの木建設に伴う発掘調査の概要－』（（財）京都市埋蔵文化財研究所　1982年）

4）「北野廃寺第14次調査」『北野廃寺・北白川廃寺発掘調査概報　平成２年度』（京都市文化観光局　1991年　１～３頁）

Ⅶ　北白川廃寺跡　No.53

1　調査経過

調査地は左京区北白川大堂町62で，今回作業場付き共同住宅の建築が計画されたため，平成11年10月14日に試掘調査を実施した。当該地は『京都市遺跡地図』（平成８年度版）では寺域の南半中央付近に当たり，昭和55年度検出の回廊[1]の南方に相当する。この回廊の線を南へ延長すると当該地のすぐ東側を通り，当該地と東側隣地との間は１ｍほどの段差となっている。東高西低のこの段差は，回廊西辺延長線に沿ってこの宅地区画一帯で認められるため，おおよそこの段差より西側は，東方堂宇を中心とする施設（金堂院？）とは別の空間であった可能性がある。

調査の結果，寺域南限を示す可能性のある東西溝１条のほか，溝２条，土壙２基を検出した。

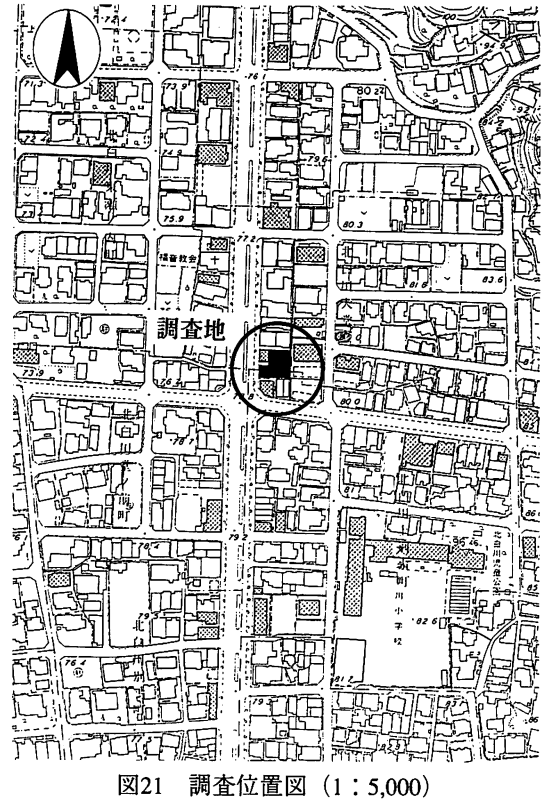


図21　調査位置図（1：5,000）

2　遺　構

調査は２本のトレンチを南北方向に設定して行った。このうち，１トレンチでは土壙状の落ち込みを検出したため，この部分を西へ拡張した結果，東西方向の溝（溝１）であることが判明した。しかし，当初土壙と誤認したように１トレンチ内で途切れており，これが東側へ全く続かないのか確認するため２トレンチを設定した。ここでは近世の南北溝（溝２）を検出したのみで，溝２は東へ続かないことが分かった。

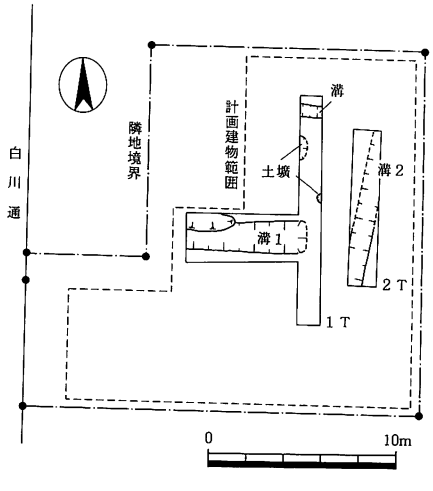


図22　トレンチ位置図（1：400）

層序　遺構面は２面を確認した。第１遺構面は極めて浅く，10cm内外の表土直下に存在する黒褐色泥砂面である。この面では近世と思われる溝と，土壙・ピットを検出した。第２遺構面は廃寺の頃の面と考えているもので，ＧＬ－30cmにあり、明黄褐色のいわゆる白川砂で形成された地山である。１トレンチにおいてはこの面で溝１を検出した。また，２トレンチでは，第１遺構面と第２遺構面の間に，近世以後の整地層と見られる灰色泥砂

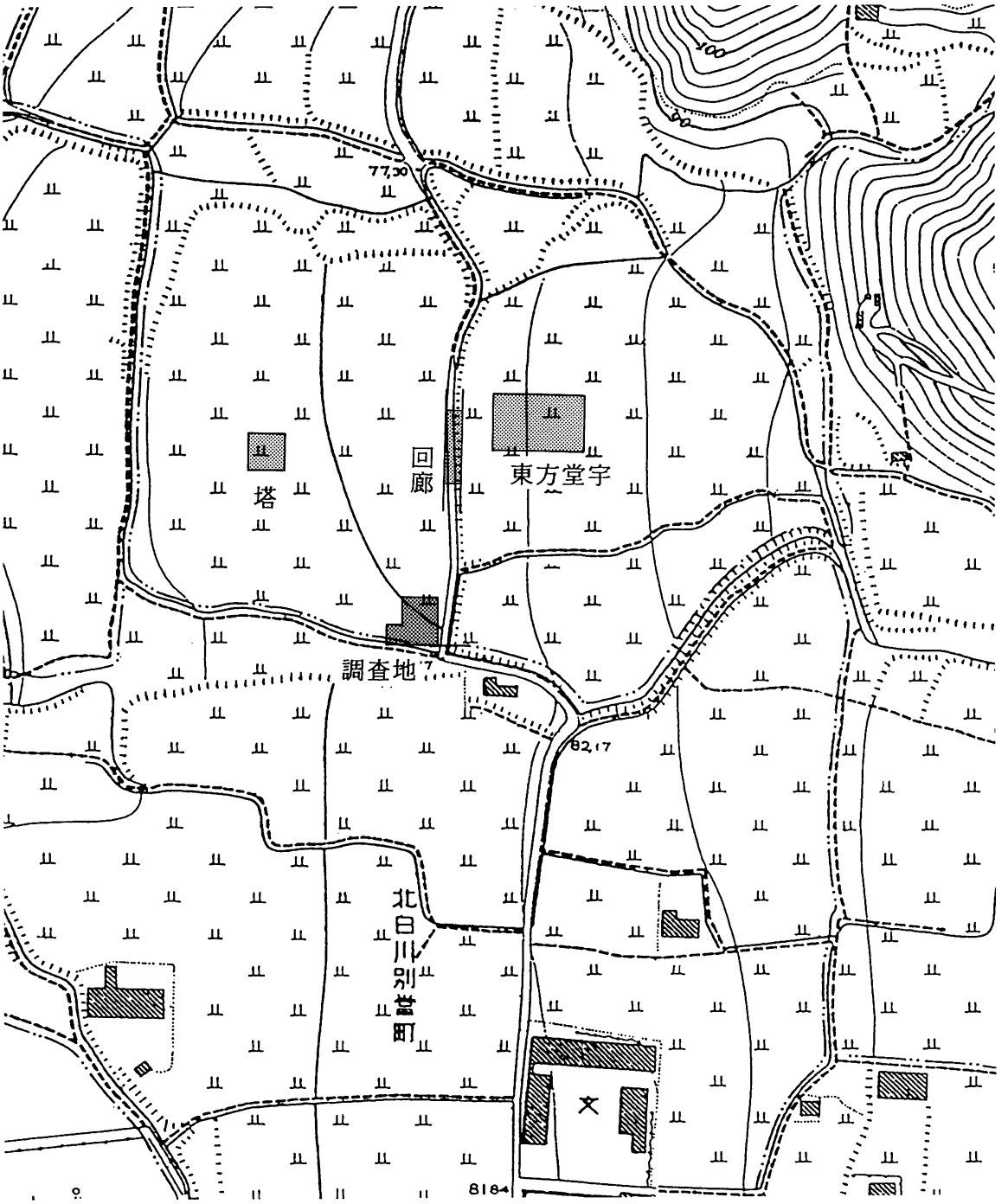


図23　北白川廃寺跡検出遺構・旧地形対応関係図（1：2,500）
（大正11年京都都市計画基本図を拡大・合成）

層が存在する。遺構検出面が白川砂で，直上が近世である状況から，当該地における廃寺の本来の遺構面はすでに削平されているようで，敷地全体でも遺物はほとんど認められなかった。

溝 2　幅140cm,検出面からの深さ40cmの直線的な溝で，軸線を正しく東西方向にとる。西側は拡張区の外へ続いているが，東はちょうど１トレンチの中で終わっている。一部を掘り上げた限りでは，埋土中に遺物はほとんどなく，わずかに布目瓦や土器の細片が見られたのみである。そのため，年代判別の決め手を欠くが，中世以降の遺物が皆無であることを重視するならば，古代に属すると見ることができる。なお，北隣の敷地を昭和62年に発掘した際に，10世紀代を下限

とする南北溝（ＳＤ６）および柵列（ＳＡ18）を検出しているが[2]，これの続きに相当する遺構は認めることができなかった。

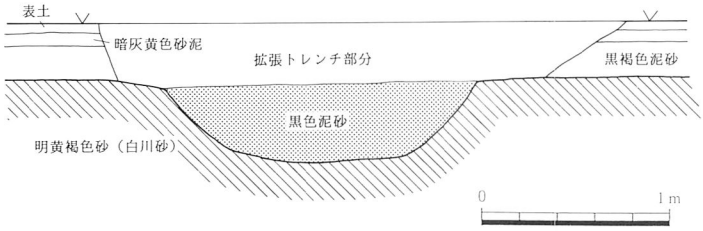


図24　１トレンチ溝１部分西壁断面図（1：40）

溝３　　２トレンチで検出した溝で，軸線は北でやや東に振る。埋土には少量ながら陶磁器の小片が含まれ，織豊期ないし江戸時代前期頃の溝と思われる。

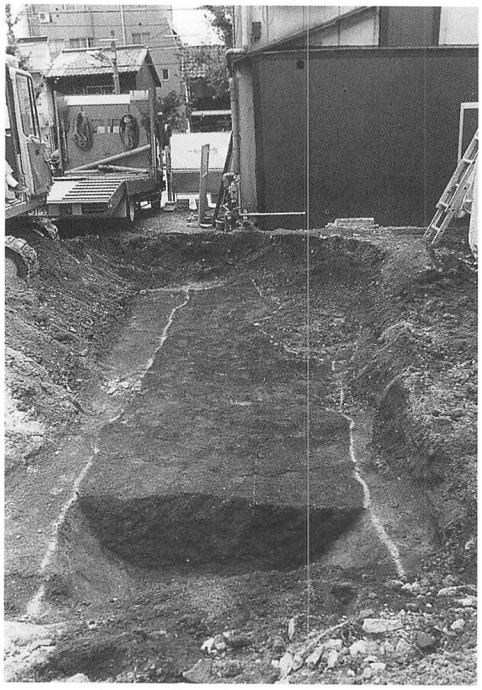


写真９　溝１検出状況（東から）

３　まとめ

北白川廃寺の寺域については，古地図からの復元が既に試みられている[3]。これによると，北白川小学校西側を南北に走る通称「阿闍梨道」[4]が，現在の御蔭通のすぐ北側で東西に分かれる辺りを南限と推定しており，この推定南限ラインは，現在も路地や字境となって残っている。今回検出した溝１は，このラインからわずかに北へずれるもののほぼ一致し，正しく東西方向であることから，南限区画施設の一部である可能性がある。当該地の東方で，小林行雄氏によって門址らしい遺構が目撃されている事実とも合致する[5]。埋土に遺物が含まれないのは，この溝が，寺域設定など造営のごく初期に作られたためとも考えうる。しかしその一方で，南限区画溝としては，当該地内で途切れて東へ続かないことが不審である。また，東方堂宇を取り巻く施設とは別に，西方施設を囲繞する溝としても，北へ曲がらずに途切れることがやはり説明しにくい。寺の区画に関わる溝として，注意するにとどめ，以後の知見の増加に期待したい。　　（堀　大輔）

註

1）辻　純一『北白川廃寺跡発掘調査概報　昭和55年度』（京都市埋蔵文化財調査センター・財団法人京都市埋蔵文化財研究所）1981年

2）家崎孝治「北白川廃寺跡」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和62年度』（財団法人京都市埋蔵文化財研究所）1988年

3）梶川敏夫「北白川廃寺塔跡　第２次発掘調査概要」『北白川廃寺塔跡発掘調査報告』（北白川廃寺発掘調査団・京都市文化観光局文化財保護課）1975年

4）京都市立北白川小学校編『北白川こども風土記』1959年

5）註３に同じ。

Ⅷ　白河街区跡　No.55

1　調査経過

調査地は平安神宮の北方，錦林小学校グラウンドの東側，丸太町通とその北の春日北通との間にある，もとは一軒の広い屋敷地である。

当地一帯は，平安時代の後期になって大規模に開発された白河街区内に含まれている。

白河街区内の復原は，六勝寺を中心に文献資料や発掘調査成果をもとに行われているが，法勝寺・尊勝寺などある程度，堂塔の配置復原が可能なほど調査の進んでいる所と，ほとんど調査事例もなく，あくまでも推定の域を出ない所とがある。今回の調査地は，六勝寺の中心部からは北方へ離れた所に位置するため，当時何が立地していたかは判明していない。近隣では過去に２回試掘調査を実施し，室町時代の土壙などを確認しているが発掘調査には至っていない。

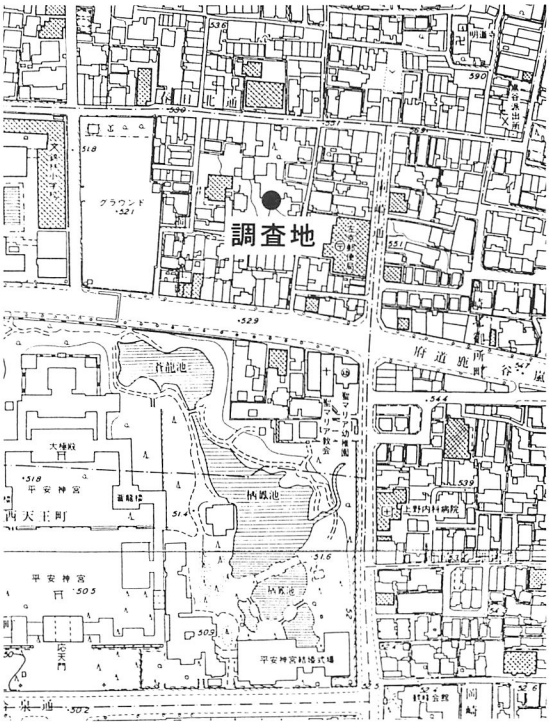


図25　調査位置図(1：5,000)

調査はマンション建設に伴うもので，当初６月30日に予定していたが，前日までの大雨で地盤がぬかるみ調査ができる状況でなかったため，７月19日に延期した。この大雨の時，敷地内に溜まった雨水が近隣住宅街に溢れ出したため，開発業者が敷地の中央に直径４ｍ，深さ３ｍほどの水溜め用の穴を掘り，一旦この穴に雨水を溜めてからポンプで場外に排水する応急措置を執った。ところが，この穴を掘った所が偶然にも井戸跡と重なっていたため，穴の周囲には破壊された井戸枠木材と多量の土器類が散在していた。穴の中には竪板式井戸枠の残欠が残っていたが，周りの壁面がしみこんだ雨水によって軟弱になって崩壊しそうなため調査は断念し，遺物採集のみ行った。出土した土器類は鎌倉時代後期の土師器（図27 1～11）の皿が中心で盤（12）も含まれている。

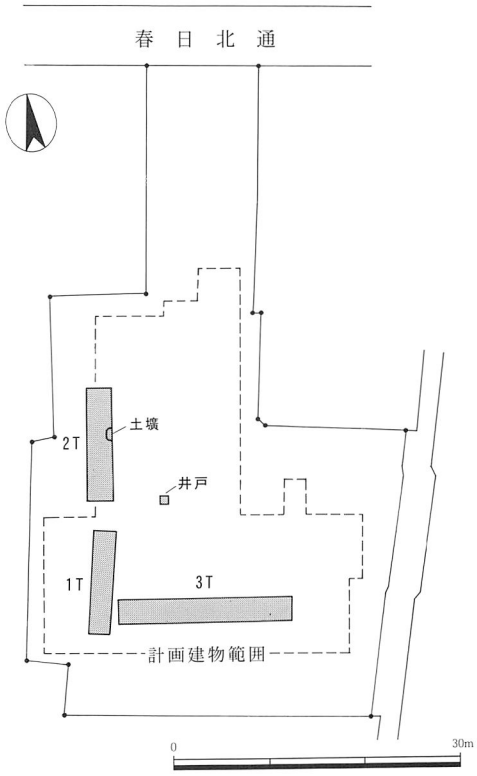


図26　トレンチ位置図(1：800)

７月19日も前日の雨のため地盤がぬかるみ，思う

ように調査が出来ず，敷地の西側で南北トレンチを２本設定して一旦終了し，22日に再度，東西方向のトレンチを敷地の南側に設定して調査を終えた。

2　遺構・遺物

当敷地内は以前に在った屋敷・樹木・池等の除去に伴う撹乱などにより，層序がかなり乱れていた。残りの良いところでの代表的な層序は，地表下0.9ｍまでが近代の盛土層，その下は20cmほどの厚みのある黄褐色泥砂（近世の整地層）で，地表下1.1ｍ以下は地山の黄褐色粘質土となる。

発見した主な遺構は土壙墓の可能性がある土壙１基で，敷地の西辺部に設けた南北方向の２トレンチで検出した。土壙は地表下1.4ｍの地山面で検出し，南北軸約1.2ｍ，東西軸0.7ｍ以上の矩形の平面形を呈し，深さは0.8ｍほどある。埋土は黒褐色泥土で，室町時代前期の土師器皿類（13～24）が出土した。

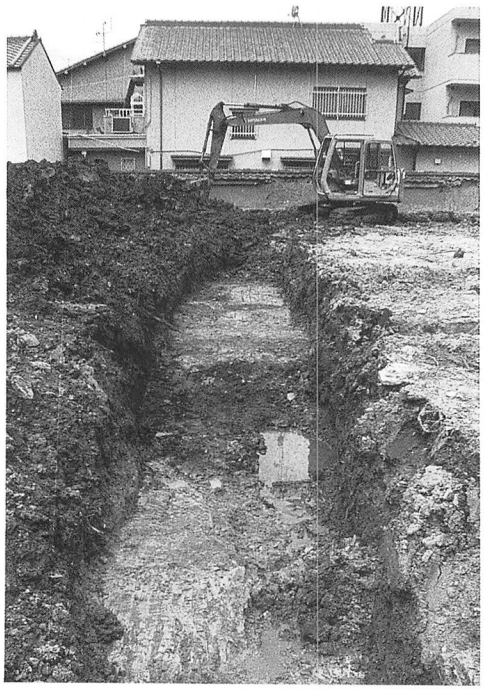


写真10　３トレンチ全景（東から）

3　まとめ

本調査地では，鎌倉時代から室町時代にかけての土壙や井戸を確認したが，全体的には撹乱部分が多く発掘調査には至らなかった。周辺でも発掘調査の事例はなく，発見した遺構・遺物からは寺院や御所が存在する証拠にはならないが，何らかの遺跡が存在したものと考えられる。

（長谷川行孝）

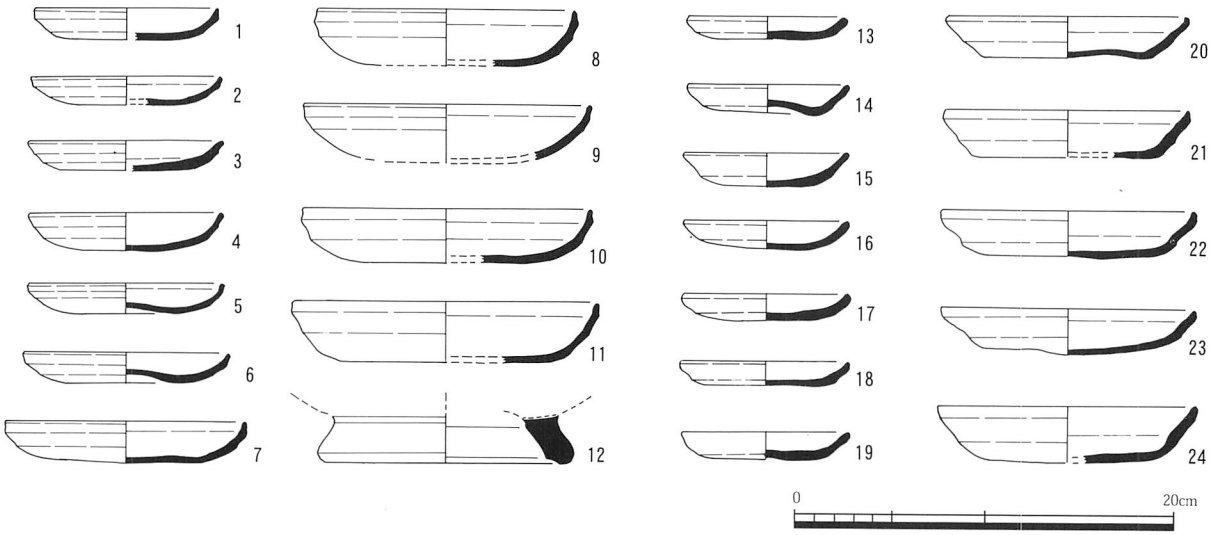


図27　出土土器実測図(1：4)

Ⅸ　法勝寺跡　No.56

1　調査経過

調査地は左京区岡崎法勝寺町29-2で，昭和61年度に,金堂から延びる東廊のコーナー部分を検出[1]した敷地の２軒東隣にあたる。今回この場所に個人住宅建設の計画が持ち上がったため，金堂関連施設の有無の確認を主な目的として，平成11年７月７日に試掘調査を行った。

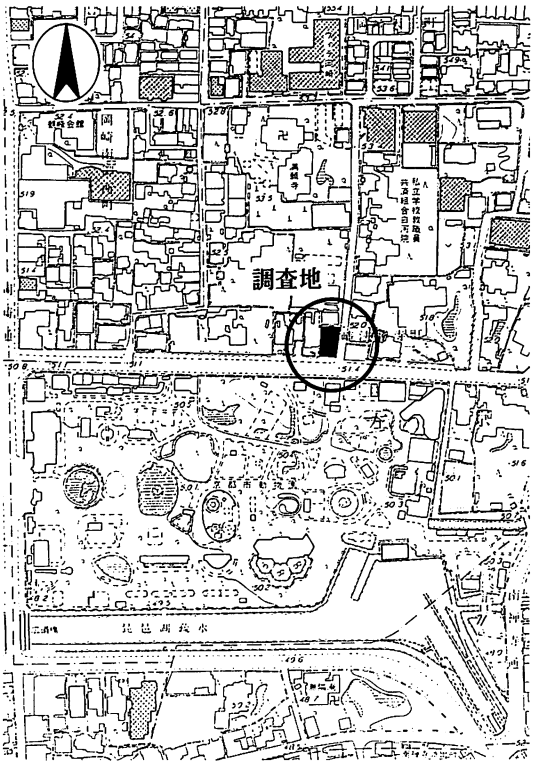


図28　調査位置図（1：5,000）

2　遺　構

層序　当地の基本層序は，およそ20cmの表土の下ににぶい褐色泥砂層，瓦を大量に含む暗褐色泥砂層，12世紀初頭頃の土師器を含む黒色泥砂層と続き，その下はいわゆる白川砂の地山となる。このうちにぶい暗褐色泥砂層は，トレンチ北端では認められない。

遺構　小規模な調査ではあったが，トレンチの東端で東への落ちを確認した。そこで一部トレンチを拡張して調査したところ，白川砂の地山の段階で大きく東側の切り土が行われ，これが直上の黒色泥砂層にも反映された格好であることが分かった（図30)。この黒色泥砂層の傾斜変換は，元々上面が水平であったものが，その上の瓦溜（暗褐色泥砂層）に切り込まれた結果こうなったと見ることもできるが，地山の傾斜変換点との一致から，本来このような傾斜を持っていたものと思われる。この落ちがほぼ正南北方向であることからも，これが金堂地区を一段高くするための法面で，黒色泥砂層は法勝寺伽藍整備に伴う整地土層である可能性が高い。おそらく白川砂では整地の形状が維持できないために，泥砂をかぶせたものであろう。このことは，黒色泥砂層に含まれる土師器が小森・上村編年のＶ期古段階に相当する[2]ことからも言える。承保２（1075）年の造営開始まで遡るかどうかはわからないが，伽藍整備の比較的早い時期に施工されたものと思われる。

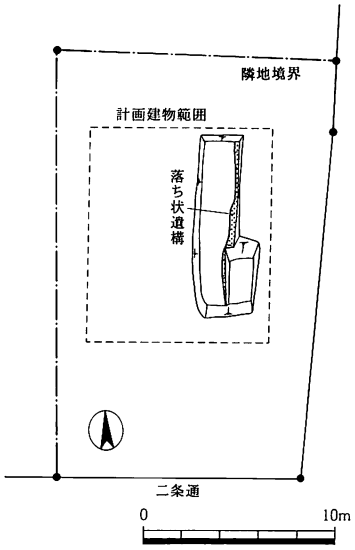


図29　トレンチ位置図（1：400）

3　遺　物

遺物のほとんどは瓦溜めから大量に出土した瓦で，サンプルとして取り上げた分だけでもコンテナ２箱分ある。他に土師器の皿が遺物袋１つ分ほど出土した。

土師器皿では，ｅ手法の調整を行い，口縁に明瞭な２段ナデを施すものがほとんどで，ての字状口縁のものがわずかに含まれる。２段ナデのものは口縁が完全には開かなくなって，上段のナデ部分がやや立上がりぎみに外反するという特徴から，Ｖ期古段階に相当する資料群と言える。

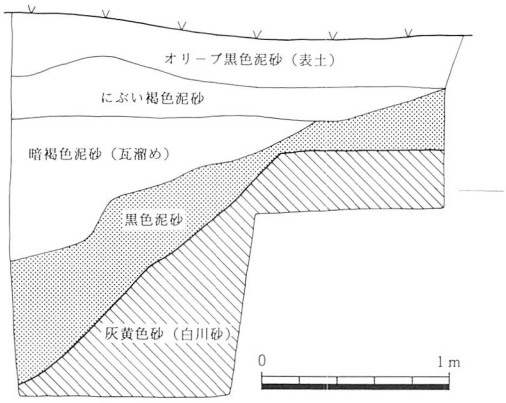


図30　トレンチ南壁断面図（1：40）

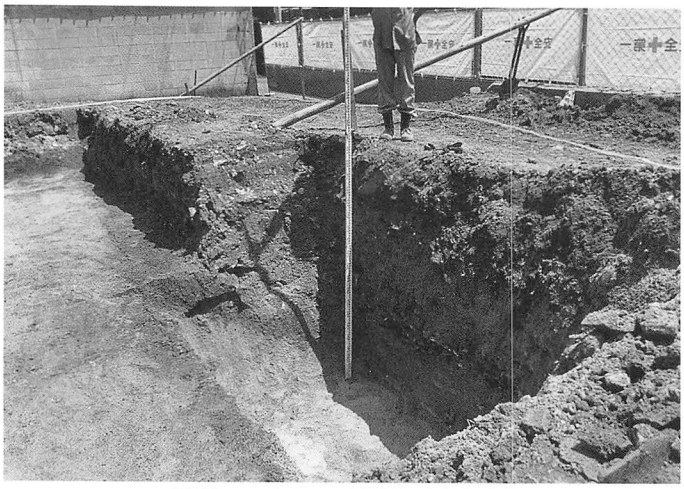


写真11　トレンチ写真（南から）

軒丸瓦は２点出土したが，瓦当が残るのは１点のみである。16葉程度の単弁蓮華文で，弁は萎縮が進んでいる。中房上の蓮子表現も極めて不明瞭だが，中心に三叉形を置いているか，あるいは三方向にハート形を陰刻しているようである。中房と弁区の間は幅の広い溝で区画し，弁区と外縁の間には珠文を巡らせる。丸瓦凸面には縦位縄タタキが残る。焼成はやや甘いが，胎土は灰白色の精良なものを用いている。文様的には丹波産のものに類例が求められる。

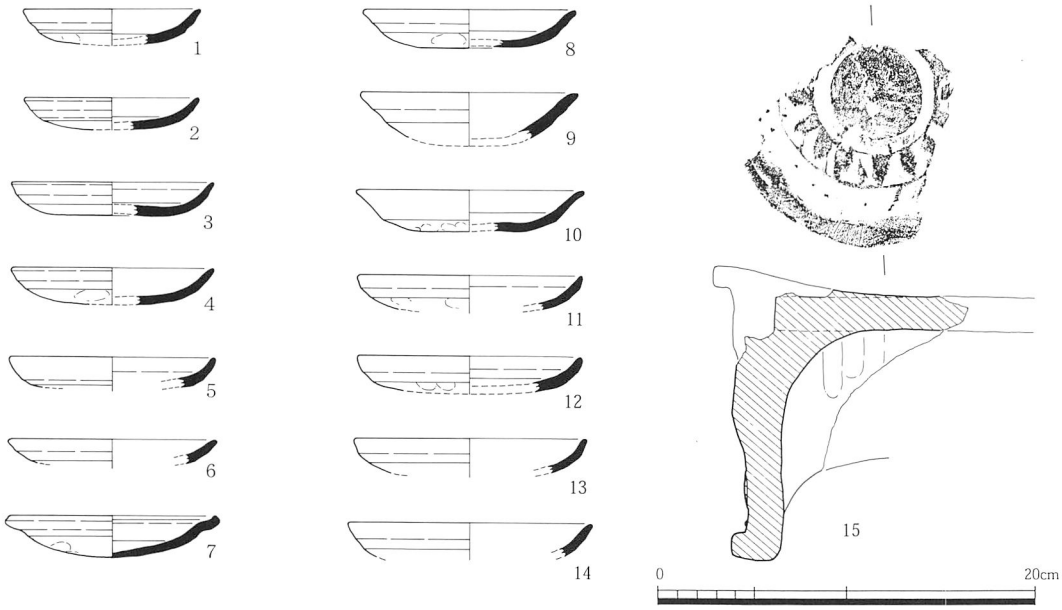


図31　出土遺物実測図（1：4）

4　まとめ

今回の調査地は六勝寺筆頭である法勝寺の金堂・東廊の隣接地であるため，何等かの関連施設の存在が期待された。その結果，西が高く東が低い段差状の遺構を検出し，これが金堂地区を周囲より一段高くするための施工であることが考えられるに至った。金堂・東廊は柱間寸法が約3mと復元されており，仮にこれを基準尺として計測を試みると，金堂の中軸線からこの落ちの肩口までの距離はおよそ25.5尺となる。図上計測であるため正確な数値ではないが，造営計画の数値としては，決して不自然なものではない。今後，南北の延長線上や，西側の対称位置においては，同様の遺構の存否に注意していく必要があるだろう。

（堀　大輔）

註

1）上村和直・辻裕司『法勝寺跡発掘調査概報』（京都市文化観光局・財団法人京都市埋蔵文化財研究所）1987年

2）小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号（財団法人京都市埋蔵文化財研究所）1996年。軒丸瓦については財団法人京都市埋蔵文化財研究所の鈴木久男氏に，土師器の年代観については，小森俊寛氏に多くのご教示をいただいた。

X　山科本願寺跡　No.60

1　調査経過

調査場所は平成9・10年度に発掘調査を実施した山科本願寺土塁南西コーナー部から北に30mほど離れた，最近まで民家の建っていた所である。敷地の西側には南北の水路が走り，これに平行して土塁が17mほど残っていた。

工事の計画は，この土塁を削平して敷地全体を平坦化し，３棟の住宅を建築する宅地開発であった。試掘調査は平成11年10月28日に道路予定地を対象として，東西トレンチを１箇所設けて実施した。土塁については，別途その取扱いについて開発者と協議し，既に半壊状態にある現状を鑑み発掘調査の指導は行わず，土塁測量図の作成を求め，さらに工事中の立会調査を実施した。

2　遺　構

東西トレンチは土塁の内側に位置し，地表下40cm前後で黄褐色土のベース面が認められ，このベース面で土壙を数基検出した。この土壙群の中には焼け土を多量に含むものもあったが，土器等の遺物の出土量は少なかった。平成９年に土塁コーナー部の内側を調査した時には，土塁に近接して井戸や倉などが見つかるなど貴重な成果が得られると共に，天文元年（1532）本願寺焼き討ちの状況を表す焼土層なども確認されていることから，今回発見した土壙群も焼き討ち後の整地に関連するものと推測される。

敷地内に残存していた土塁は，高さ３ｍ・幅３ｍで北側の敷地境界から南へ17mほどの間に在

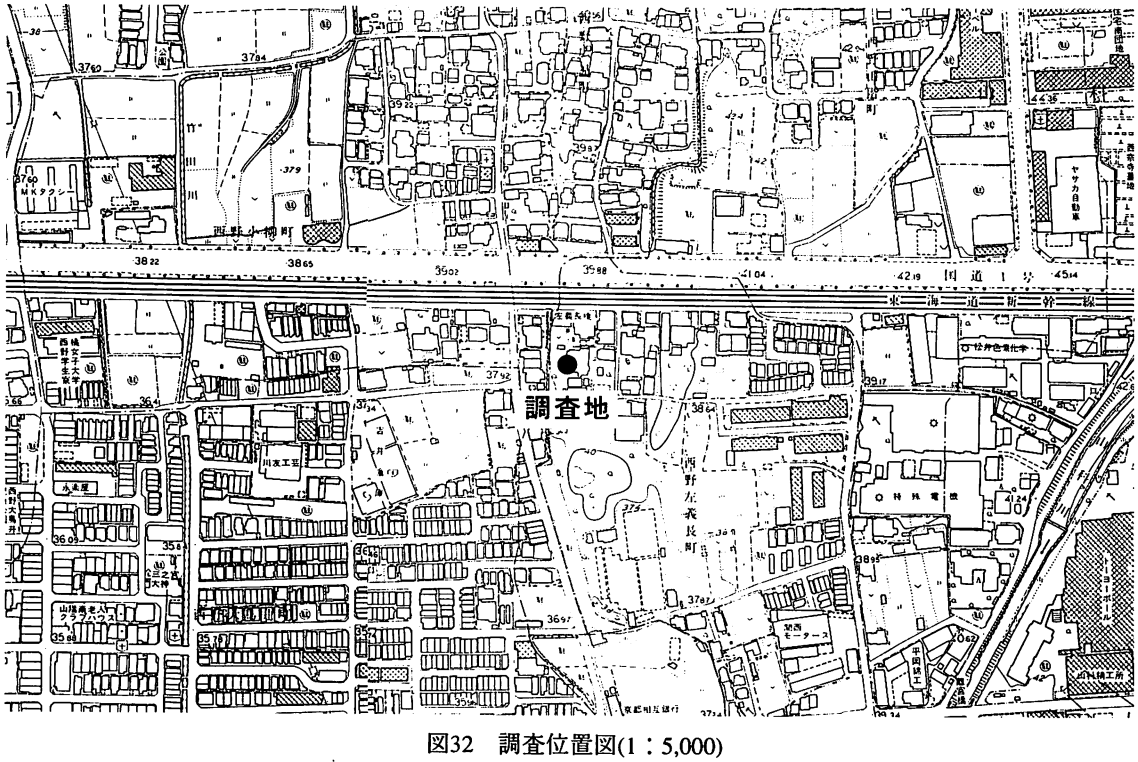


図32　調査位置図(1：5,000)

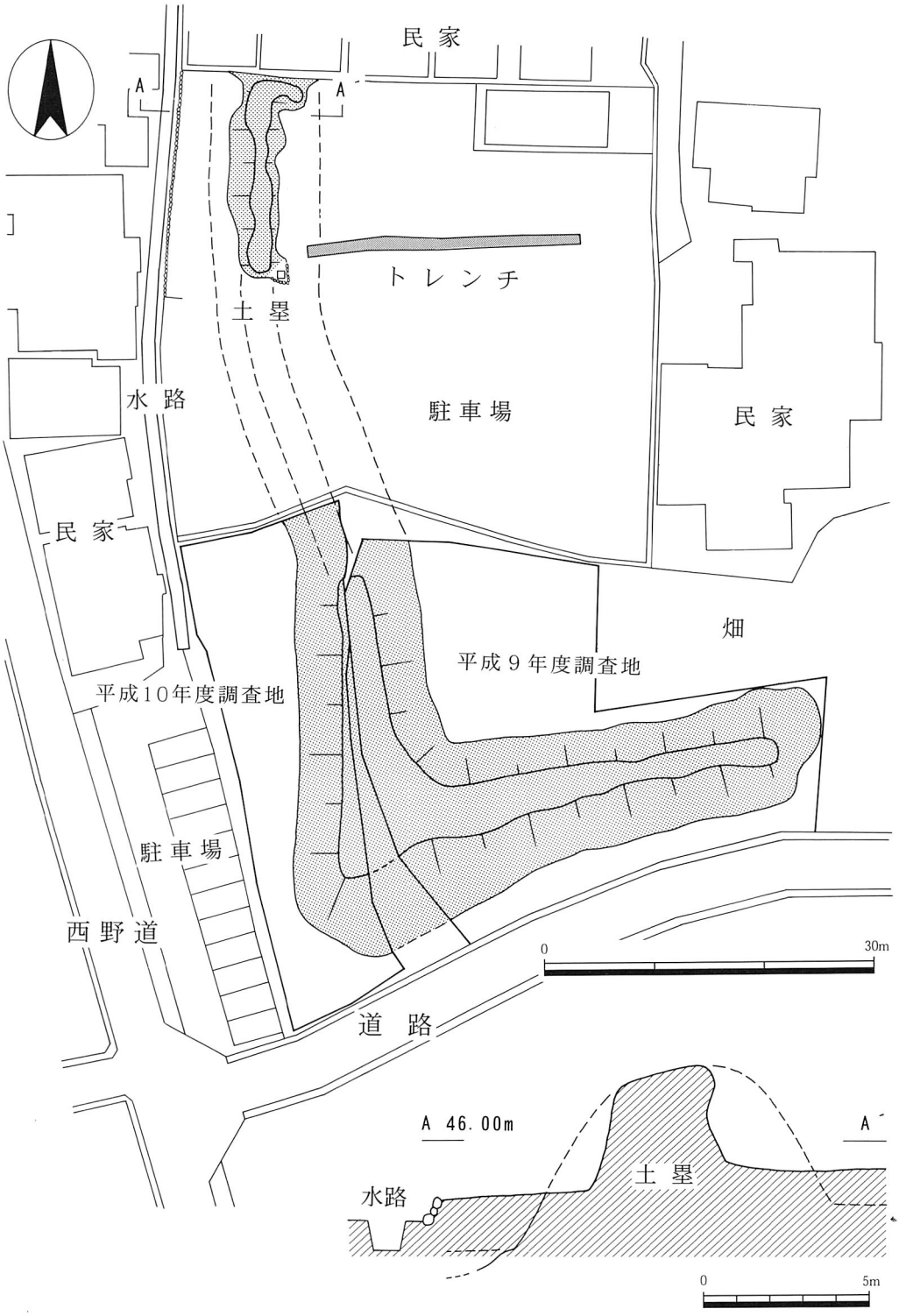


図33　トレンチ位置図(1：600)及び土墨断面図(1：200)

った。土塁の斜面は既に両側からほぼ垂直に削られ断面がむき出しになっており，当初の半分程度の厚みしか残っていないと考えられる。頂部は少し西側に向かって傾斜しているが，その勾配は緩やかであることから，本来の最高部に近い部分と推測される。堀については後日，西側境界を流れる水路の護岸補強工事中に立会調査を行い，土塁から水路下へ向かって落ち込む外堀の一部を確認した。

写真12　土塁全景(南東から)

3　まとめ

平成９年の宅地開発が契機となって始まった本願寺土塁の発掘調査によって土塁の構造や土塁のすぐ内側に本願寺に関連した施設が多々あることなどが判明した。しかしその代償は大きく僅か二年の間に国道１号線以南に存在した土塁は全て消滅し，住宅地や駐車場に変貌してしまった。今後も土塁内の施設解明のため周辺地域の調査を続けていかなければならない。

（長谷川行孝）

写真13　土塁全景(南西から)

写真14　土塁全景(西から)

XI　中久世遺跡　No.80

1　調査経過

調査地は南区久世殿城町１・２・６・７・９・10の工場跡地で，西国街道（府道上久世石見上里線）から一区画おいたすぐ北側である。現在中久世遺跡として指定している範囲のほぼ中央に位置し，周辺近接地の立会調査でも弥生～平安期の遺構・遺物が検出されている[1)]。また，『山州名跡志』に行基創建と伝え，近世下久世村の信仰を集めた福田寺の隣地でもある。今回当該地が宅地として造成されることになったため，遺構の有無を確認するための試掘調査を平成11年８月２日に実施した。調査は，下水管等の埋設が予想される宅地内道路部分に，南北２本・東西１本のトレンチを設定して行い，その結果，溝１条・土壙２基のほか，不明遺構１・柱穴多数を検出した。中でも土壙３からは多くの弥生時代の遺物が出土したため，３トレンチ部分については，工事掘削の際に立会調査を行うことを指導し，11月29日，財団法人京都市埋蔵文化財研究所によって実施された。

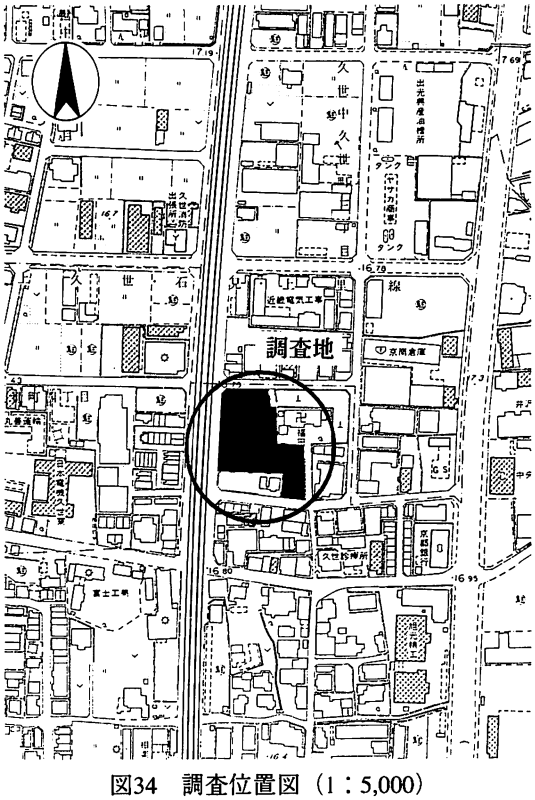


図34　調査位置図（1：5,000）

2　遺　構

層序　層序は全体に単純で，20～40cmの現代盛土を除くと，かつて耕作地であった時の床土である灰色泥砂の層があり，その直下が黄褐色砂泥の地山となる。遺構はすべてこの地山の上面で検出した。地山面は周辺の地形と同じく北から南へ緩やかに傾斜しており，水平に整地された敷地内ＧＬからは，１トレンチで－40cmであるのに対し，３トレンチでは－70～80cmを測る。

溝１　１トレンチの中ほどで検出した東西溝で，幅180cm・深さ40cmを測る。底面は緩やかなカーブを描く。今回検出した遺構は全てこの溝より南側にあって，北側には全く認められず，溝１を境に様相が一変する。このことから，やや小規模ではあるが，この溝が南の集落域と北とを区画する施設であった可能性が考えられる。出土した弥生土器は多くないが，Ⅲ様式後半を主体としつつ，Ⅲ様式前半からⅣ様式後葉のものまで含み，ある程度の期間，溝として機能していたと思われる。

不明遺構２　２トレンチの西端で検出した。ＧＬから２ｍ以上掘削したが底に達せず，全体の形も押さえられなかったため，その性格は不明である。青灰色の粘土で厚く埋まっており，弥

生土器のほか，杭などの加工された木材が出土した。

土壙3　3トレンチで検出した。直径2.5～3.0m・深さ0.8mほどの土壙で，試掘の際には東西溝と考えていたが，立会の際に西側で閉じることが分かったため，土壙とした。断面図作成のため幅30cmで掘り上げたところ，完形の石斧・石庖丁や弥生土器など，部分的な掘削にもかかわらず，豊富な遺物が出土した。土器は壺・甕がほとんどで，畿内第Ⅲ様式でも前半のものに限られるようである。ただし部分掘削のせいもあるが完形には復元できないものが多く，出土状況からも埋納されたものとは認め難い。

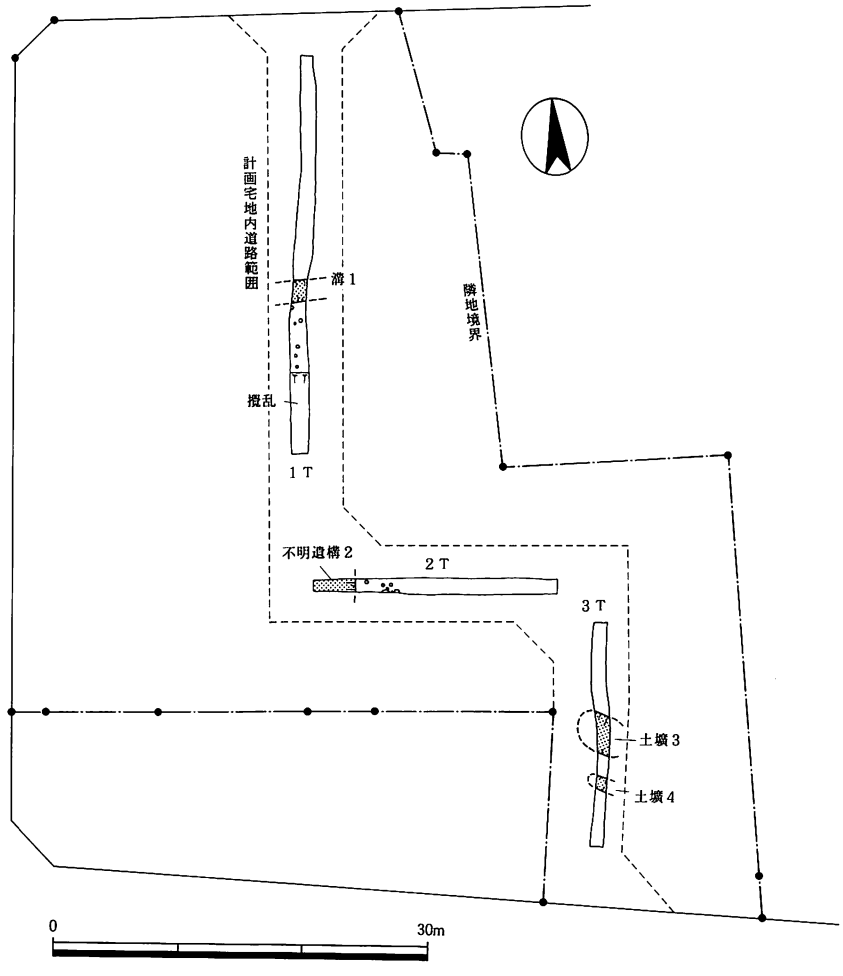


図35　トレンチ位置図（1：600）

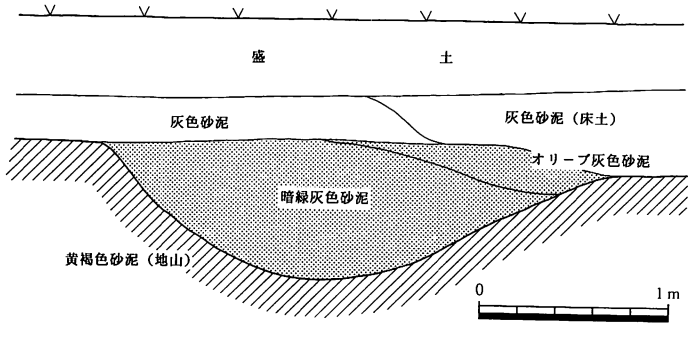


図36　3T・土壙3部分東壁断面図（1：40）

土壙4　土壙3の南側で検出した。直径1.3m・深さ0.6mを測る。これも東西方向の溝と見ていたが，土壙3と同様に西で閉じ，土壙であると思われる。検出のみで調査を終えたため，詳細は不明である。

3　遺　物

石庖丁　土壙3から出土したもので，完形1点・破片2点がある。いずれも片刃の磨製石庖丁で，直線側を刃部とする。材質は粘板岩である。完形で出土した図37の1の場合，縦4.3cm・横16.5cm・厚さ0.6cmで，中央より左に寄って2つの穿孔がある。刃の穿孔部に近い部分は，使用

によって磨滅している。2は立会で検出したもので，不明瞭だが表面左寄りの部分から片刃であることがわかる。穿孔の位置は1と逆で右寄りにつけられる。

石斧　全長14.5㎝・幅4.0㎝・厚さ3.0㎝の柱状片刃石斧である。裏面基部近くには，浅い抉りによって面を2面もち，基部端面にも浅い窪みがある。土壙3出土。

写真15　3T　土壙3・4検出状況（南から）

弥生土器　図化し得たものは15個体である。3・4・10が溝1から，5～7が不明遺構2から，1・2・8・9・11～15が土壙3より，それぞれ出土した。

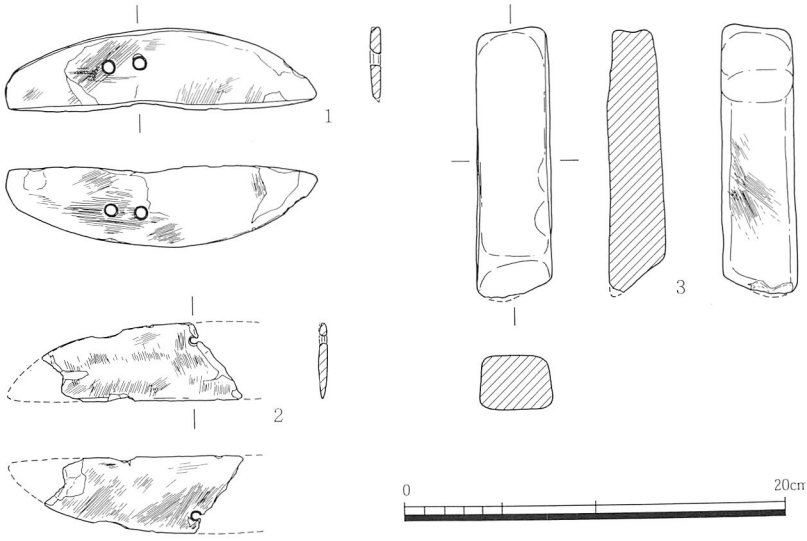


図37　土壙3出土石器実測図（1：4）

壺　1は口縁が大きく水平に近く開くもので，口唇部にかけてさほど厚みが変化しない。口縁端面には櫛描きの連弧文を施す。堅緻に焼成され，灰白色を呈する。2は肩部の破片で，刻目突帯の上には6重の櫛描波状文を2段，下には8重の櫛描直線文と4重以上の波状文を施している。焼成は堅緻で灰白色を呈する。溝1出土遺物の中では，やや古相を示す資料である。7は外面をタテハケ，内面をヨコハケで整えるもので，口縁端面にもハケメを施すため，口縁の下の角はわずかに張り出すように鋭角になっている。また，内面口縁付近にはおこげ状の炭化物が付着する。

無頸壺　2個体があり，ともに不明遺構2から出土した。5は全体に磨滅しているが，口縁付近内面を強くヨコナデしていることが観察される。6は外面に6重の櫛描波状文を飾るもので，施文に先行してナデによって丁寧な調整が行われている。口縁端面はハケメで整えている。堅緻な焼成で灰黄褐色。

甕　3は頸部から口縁にかけてあまり厚みを変えずに移行するもので外面から口縁端部はナデ，内面は目の粗いヨコハケメで調整する。溝1出土遺物ではこの個体のみがⅣ様式の特徴を示す。4は若干垂下した口縁端部に，櫛状原体で扇状文を施文する。外面はナデ，内面はヨコハケメで調整され，口縁付近のみヨコナデしている。焼成は堅緻で浅黄橙色を呈し，胎土には1㎜程度の砂粒が多く含まれる。8は褐灰色で石英を多く含む特徴的な胎土のもので，外面および内面

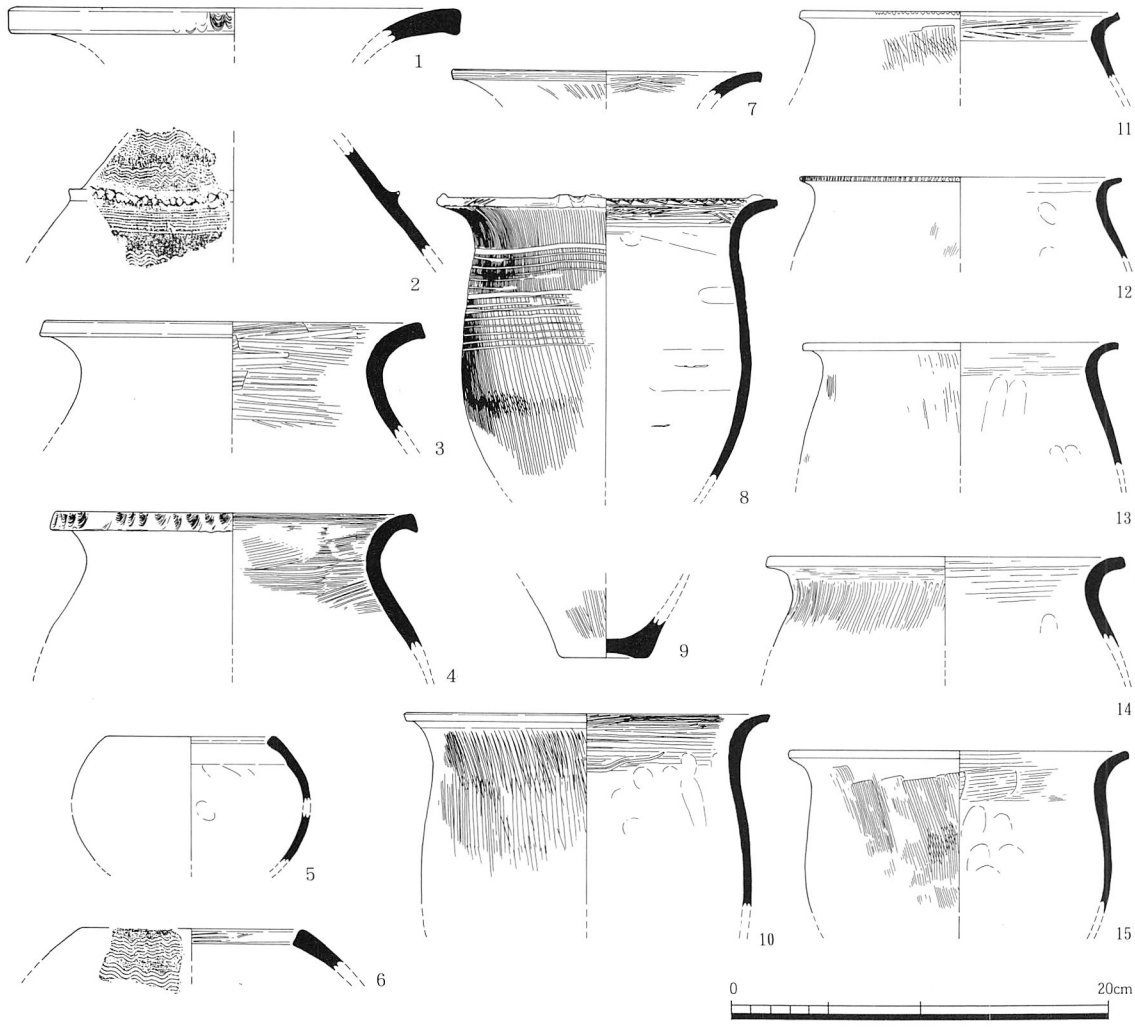


図38　出土土器実測図（1：4）

口縁を丁寧にハケメで調整する。内面の口縁直下には２重の櫛描波状文を飾り，口縁には指頭押圧によって耳状の突起をおよそ90度ごとに付けている。また外面のハケメの上に施した横位の直線文は，５本を１単位として施文されている。使用によって外面には炭化物が多く付着する。11・12は口縁部がヨコナデによって折り曲げるように成形されているもので，ともに端部には刻み目を施す。外面および内面口縁部はハケメで調整される。10・13～15は口縁端面に刻み目を施さず，端面が比較的明瞭な面をもつものである。口縁から胴部への移行が緩やかなものが多い。灰白色からにぶい黄橙色，灰黄褐色を呈し，焼成はおおむね良好である。

4　まとめ

本調査では，限られた面積の調査ながら，溝や土壙など多数の遺構を検出することができた。周辺の旧地形は北西から南東へ流れる何条もの流路と，それに挟まれる形で居住域としての微高地が存在したと復元されている[2]が，今回のトレンチ内では流水の痕跡は見出せず，良好に遺存する地山上に多数の柱穴を確認したことから，付近一帯がそのような居住域の１つであったと考えられる。その中心年代は弥生時代中期前葉であったことが，Ⅲ様式に集中する土器の年代から

伺える。当該地の西方160mほどの地点では，同時期の土器が大量に出土したこともあり[3]，この時期には広い範囲で集落が営まれたものと見られる。

（堀　大輔）

註

1）京都市文化観光局・財団法人京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和58年度』1984年

2）吉崎　伸『中久世遺跡発掘調査概報 平成元年度』（京都市文化観光局）1990年

3）「Ⅶ　中久世遺跡（91MK142）」『京都市内遺跡立会調査概報 平成3年度』（京都市文化観光局）1992年

なお，今回弥生土器の観察と年代観については，財団法人京都市埋蔵文化財研究所 平方幸雄氏に様々なご教示をいただいた。記して謝意を表します。

表２　試掘調査一覧表

平成10年度　　１～３月期

平安宮

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
内裏・聚楽第跡	上・出水通千本東入西神明町335-1，弁天町311-1	3/26	GL-0.7mで深さ1.5m以上，幅2.7m以上の南北方向の溝状遺構を検出。聚楽第西堀か。本文５頁	28m²	1

平安京左京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
四条三坊一町	中・西洞院通三条下る柳水町72	2/17	敷地の大半が地山面を深く掘り込んだ現代の撹乱で，遺構面はほとんど消失していた。	183m²	2
五条一坊五町	中・壬生相合町13-33他	1/13	GL-1.1mまで盛土，GL-1.4mまで粘土取り穴。平安期の遺構は完全に削平されている。	19m²	3
五条四坊十町	下・柳馬場通綾小路下る永原町154-1他	1/21	GL-2.0mで地山の砂礫層。室町時代の土壙・ピット等を検出する。	44m²	4

平安京右京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
五条二坊五町	中・壬生東高田町17番地	3/17	GL-1.0mで南へ落ち込む湿地状の堆積。	18m²	5
五条三坊六町	右・西院南井御料町6-4	1/18・3/29・4/13～15	計画地の西半はGL-0.8m以下，湿地状堆積。東半はGL-0.8～1.0mで平安時代の大型掘立柱建物跡などを検出。設計変更を指導する。本文10頁	182m²	6
六条一坊十六町	下・中堂寺庄ノ内町24-4	3/15	現在の西高瀬川の河床よりも盛土が深いことから，河川改修以前は当該地は流路跡か。	11m²	7
六条四坊三町	右・西院六反田町17-2	3/25	GL-0.8m以下，灰色泥土の分厚い湿地堆積。	63m²	8
七条三坊六町	右・西京極中溝町2-3	2/25	西半部は，砂礫をベースとする微高地。東半部は湿地堆積。	86m²	9
七条三坊六町	右・西京極中溝町2-9	3/3	敷地の大半は湿地帯。	38m²	10

太秦地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
史跡・名勝嵐山	右・嵯峨鳥居本小坂町21	2/10	GL-0.3mで地山検出。遺構・遺物なし。	21m²	11

洛北地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
植物園北遺跡	北・上賀茂池端町24	3/1	GL-0.9～1.15mで地山の砂礫層，氾濫域のため遺構検出できず。	28m²	12
植物園北遺跡	北・上賀茂豊田町27,38	3/11	GL-0.5～0.8mで地山。河川の氾濫堆積。	35m²	13

洛東地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
中臣遺跡	山・栗栖野狐塚町1-4	1/11	GL-1.1m以下，河川の氾濫堆積。	13m²	14
中臣遺跡	山・西野山中臣町75-17の一部,75-18の一部	3/8	GL-1.0～1.14mで地山の浅黄色砂泥。遺構・遺物なし。	11m²	15

伏見・醍醐地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
伏見城跡	伏・桃山最上町55	2/8・2/9	GL-0.8～1.8mで地山を検出。土壙３基，東西溝１条を検出するが，遺構密度は薄い。	254m²	16
伏見城跡	伏・桃山町伊賀60-8,60-10,60-11	2/1	GL-0.3～0.6mで地山を確認。近世以後に雛壇造成が行われたと考えられる。	41m²	17

鳥羽地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
鳥羽離宮跡	伏・竹田西桶ノ井町33	3/23	GL-1.1～1.8mで鴨川の氾濫堆積。	56m²	18
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町76	2/15	GL-1.2mで土壙を検出。発掘調査を指導する。	22m²	19
鳥羽離宮跡	伏・竹田東小屋ノ内101	1/27	GL-0.9mで東へ落ち込む池状堆積を検出。	27m²	20

平成11年度　4～12月期

平安宮

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
大蔵省	上・千本通中立売通東入丹波屋町360他	9/1	GL-0.57mで黒色泥土（ベース），遺構・遺物は発見出来ず。	13m²	21
中務省	上・下立売通千本東入中務町490-50	11/19	GL-0.8mで中務省北限溝を検出。設計変更を指導する。本文7頁	7m²	22
朝堂院	上・千本通竹屋町上る南主税町1206,1207	12/15	GL-1.96mまで粘土採掘により破壊されている。	11m²	23
左馬寮	中・西ノ京左馬寮町9-38	8/9	顕著な遺構・遺物なし。	21m²	24

平安京左京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
二条二坊八町	上・丸太町通堀川西入西丸太町187他	9/29	GL-1.1m以下，砂礫層。	71m²	25
三条三坊二町	中・西洞院通押小路下る押西洞院町605他16筆	8/6	GL-1.0～1.6mまで近世の盛土，以後砂礫の地山。	43m²	26
三条四坊二町	中・東洞院通押小路下る船屋町403,404-1,406	12/27	GL-2.5mまで旧建物による撹乱。	109m²	27
三条四坊二町	中・高宮町194他	4/26	GL-1.2mの砂礫ベース面で時期不明の東洞院東側溝及び桃山時代の土壙1基を発見。	66m²	28
六条三坊十一町	下・烏丸通五条下る大阪町373・諏訪町通五条下る上諏訪町295-1他	6/1	中世には湿地帯であったと思われる。遺構は希薄で，GL-2.3mで地山の黄褐色砂礫を認める。	78m²	29
東京極大路	下・寺町通五条上る西橋詰町744-2他	8/18	GL-2.12m以下，鴨川の氾濫流域。	38m²	30
七条四坊九町	下・西木屋町通上ノ口上る梅湊町88	12/13	GL-0.45～1.8mで氾濫堆積の地山。	85m²	31
九条三坊十町	南・東九条上殿田町41-1	11/24	GL-0.66mで褐灰色泥砂層上面で室町時代前半の土壙墓，土壙，南北溝，柱穴を検出。	66m²	32

平安京右京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
四条一坊六町	中・壬生花井町3	7/6	設計GL-1.3m以下で湿地状堆積。設計GL-1.6m以下で砂礫の地山。	25m²	33
四条三坊四町	右・西院巽町32他3筆	11/1	四条大路北側溝と考えられる東西溝を検出。	42m²	34
六条二坊五町	下・西七条東御前田町8,8-1,8-2,8-3	11/26	GL-1.0mで湿地状堆積。	49m²	35
六条三坊二町	右・西院南寿町17-1,-2,-3	6/9	GL-0.86mで，平安時代の遺構面。小型の柱穴や浅い落ち込みを検出。	31m²	36
六条四坊九町	右・西院月双町40	8/25	GL-1.26mで時期不明の南北溝1条。	66m²	37
七条三坊九町	右・西京極北庄境町23	4/22	河川の氾濫堆積を確認。	41m²	38
七条四坊十六町	右・西京極西大丸町84	8/9	GL-1.0mで桂川の氾濫原。	27m²	39
八条二坊七町	下・西七条石井町47	4/7	GL-0.9～1.37m以下，湿地状堆積。	29m²	40
八条三坊二町	下・七条御所ノ内西町19	8/12	一部整地土上に平安時代前期の土壙1基，溝1条を検出。本文13頁	33m²	41
史跡西寺跡	南・唐橋西寺町44	6/14	食堂の礎石抜き取り穴と考えられる遺構を1基確認。	9m²	42
九条三坊十五町	南・吉祥院前河原町22他	9/8	GL-0.72mで灰色粘土，以下桂川の氾濫堆積。	53m²	43
九条四坊七町	南・吉祥院宮ノ西町29,26-1	10/6	GL-0.7m～0.8mで氾濫堆積。	23m²	44
九条四坊八町	南・吉祥院宮ノ西町11他	10/12	GL-1.2～2.0mで氾濫堆積。	167m²	45

太秦地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
広沢池遺跡	右・山越乾町１他	5/17	GL-0.58m以下，湿地状の堆積。石器検出できず。	19m²	46
門田町遺跡	右・太秦門田町6-16	4/12	GL-0.45mで，明黄褐色の地山。東西溝２条，杭列１条，柱穴３個を検出。	20m²	47

洛北地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
中の谷窯跡	左・岩倉木野町137	4/5	中の谷の流路部分に相当する。遺構・遺物なし。	29m²	48
上総町遺跡	北・小山上総町	12/8・12/9	GL-0.4～0.9mで地山。柱穴群，整地層等検出。発掘調査を指導する。	53m²	49
上総町遺跡	北・小山上総町	9/6	GL-0.5mで奈良時代の流路跡。	48m²	50
植物園北遺跡	北・上賀茂桜井町14他	11/4	GL-0.67mで賀茂川の氾濫堆積。	52m²	51
北野廃寺跡	北・北野上白梅町5	8/5	北野廃寺講堂跡に伴う礎石抜き取り跡，整地土を確認。設計変更を指導する。本文15頁	36m²	52

北白川地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
北白川廃寺跡	左・北白川大堂町62	10/14	GL-30mで地山。白鳳溝1条，近世溝1条を検出。本文18頁	43m²	53
北白川廃寺跡	左・北白川堂ノ前町30,32	8/3	現地表面は周囲よりも１m低く，過去の造成工事で完全に削平されたと考えられる。	25m²	54
白河街区跡	左・岡崎入江町24他	6/30・7/19 7/22	GL-1.4mで中世の井戸及び土壙を各１基検出。本文21頁	100m²	55
六勝寺跡	左・岡崎法勝寺町29-2	7/7	敷地東端で地山の落ち込みを検出。本文23頁	24m²	56

洛東地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
法観寺旧境内	東・八坂通下河原東入八坂上町379-1	10/18	GL-1.36mで白鳳期から平安時代後期の瓦等を含む土壙状遺構を検出。	26m²	57
珍皇寺旧境内	東・広道通松原上ル二丁目玉水町70他	7/21	地山直上まで近世から近代にかけての整地層。	36m²	58
法住寺殿跡	東・妙法院前側町447	8/23	GL-1.18mで東西方向の溝状遺構。	17m²	59
山科本願寺跡	山・西野左義長町19-1他	10/28	GL-0.2～0.4mで焼土などを含む複数の土壙を検出。平成９年度・10年度に発掘調査した土塁の続きを測量。本文26頁	28m²	60
中臣遺跡	山・栗栖野打越町34-5,36-6,36-8	11/15	GL-0.7m以下地山。幅90cm，深さ26cmの時期不明の溝状遺構検出。	18m²	61
深草寺跡	伏・深草田谷町３	9/20	GL-1.0mで地山の明黄褐色砂泥。遺構なし。	39m²	62

伏見・醍醐地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
醍醐古墳群	伏・醍醐内ヶ井戸町19-1他	9/27・28	古墳の存在は認められなかった。	90m²	63
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐東大路町，伽藍町他	5/10・11	既存管の確認調査のため，近世以後の路面遺構を除き，顕著な遺構なし。	24m²	64
西飯食町遺跡	伏・深草池の内町13（京都市青少年科学センター内）	9/1・2	平安末期～鎌倉時代の遺物包含層の上下２面に遺構あり。発掘調査を指導する。	100m²	65
伏見城跡	伏・深草大亀谷六躰町28-2.38-1	9/22	GL-0.5m以下，砂利・砂等の無遺物層	55m²	66
伏見城跡	伏・新町６丁目990,新町５丁目498-2,今町666他	10/25	表土直下が地山面。遺構・遺物ともに発見出来ず。	50m²	67
伏見城跡	伏・西大手町324,325,334	12/6	GL-0.44mで厚い砂の堆積，遺構・遺物なし。	23m²	68
伏見城跡	伏・大坂町588他	11/29	GL-1.0mで黄褐色粘土の地山。近世以後の落ち込み等検出。	43m²	69

鳥羽地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
上鳥羽遺跡	南・上鳥羽南部地区街区番号第106ブロック町田23-4他	9/16	GL-1.5m以下，河川の氾濫堆積。	69m²	70
上鳥羽城跡	南・上鳥羽城ヶ前町2他	7/12	計画建物の範囲内は，GL-1m以下氾濫堆積。	47m²	71
鳥羽離宮跡	伏・竹田西樋ノ井町19	6/28	GL-1.2m以下，鴨川の氾濫堆積。	22m²	72
鳥羽離宮跡	伏・竹田田中宮町91	9/8	湿地状の堆積。	21m²	73
鳥羽離宮跡	伏・竹田西内畑町106他	7/28	GL-1.2m以下，鴨川の氾濫堆積。	23m²	74
鳥羽離宮跡	伏・竹田東小屋ノ内町101の一部	5/26	GL-1.6m以下，池状堆積。	20m²	75
鳥羽離宮跡	伏・竹田東小屋ノ内町110の一部	5/26	トレンチの北半部はＧＬ-0.9m以下，池状堆積。	30m²	76
鳥羽離宮跡	伏・竹田東小屋ノ内町110の一部	12/1	GL-1.0～1.52mは氾濫堆積，それ以下池状堆積。	11m²	77
下鳥羽遺跡	伏・竹田松林町22	6/16	GL-1.0m以下，湿地状の堆積。	43m²	78

南・桂地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
上久世遺跡	南・久世上久世町66の一部,67-1	12/20	溝１条を検出する。	41m²	79
中久世遺跡	南・久世殿城町1,2,6,7,9,10	8/2	弥生時代の溝・柱穴群を検出する。設計変更を指導する。本文29頁	80m²	80
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目37	5/12	竪穴住居跡や掘立柱建物跡等，前面道路から約40cmのところで検出された。発掘調査を指導する。	65m²	81

長岡地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号
福西古墳群	西・大枝東長町1-36	9/7	GL-1.56～2.0mで橙色の地山。遺構・遺物なし。	23m²	82
長岡京跡	南・久世築山町250-1他	11/17	GL-1.94cm以下，湿地状堆積。		83
長岡京跡	伏・羽束師菱川町579.580	5/25	地表下0.6mで推定東三坊大路の西側溝を検出。東側溝は発見出来ず。	70m²	84
長岡京跡	西・大原野上里南ノ町912他	7/26	GL-0.74mで時期不明の溝２条。	65m²	85
長岡京跡	西・大原野上里南ノ町546-1他	5/19	小畑川の河岸段丘斜面を確認。	160m²	86

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしくつちょうさがいほう
書名	京都市内遺跡試掘調査概報　平成11年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	梶川敏夫・長谷川行孝・馬瀬智光・堀　大輔
編集機関	京都市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
発行年月日	西暦2000年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安宮跡・聚楽第跡	京都府京都市上京区出水通千本東入西神明町	26100		35度1分6秒	135度44分46秒	1999/3/26	28	事務所
平安宮跡中務省	京都府京都市上京区下立売通千本東入中務町	26100		35度0分55秒	135度44分49秒	1999/11/29	7	個人住宅
平安京跡五条三坊六町	京都府京都市右京区西院南井御料町	26100		34度59分50秒	135度43分51秒	1999/1/18・3/29・4/13～4/15	182	工場
平安京跡八条三坊二町	京都府京都市下京区七条御所ノ内西町	26100		34度59分0秒	135度43分55秒	1999/8/12	33	工場
北野廃寺跡	京都府京都市北区北野上白梅町	26100		35度1分29秒	135度44分2秒	1999/8/5	36	立体駐車場

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安宮跡・聚楽第跡	宮殿跡 城跡	平安時代 桃山時代	聚楽第西堀跡	土師器・瓦	
平安宮跡中務省	宮殿跡	平安時代	北限溝跡	軒瓦	設計変更により保存措置を図る。
平安京跡五条三坊六町	都城跡	平安時代	大型掘立柱建物跡	土師器・須恵器	設計変更により保存措置を図る。
平安京跡八条三坊二町	都城跡	平安時代	土壙・溝跡	土師器・須恵器・瓦	
北野廃寺跡	寺院跡	飛鳥～平安時代	基壇建物の礎石抜き取り跡・柱穴	瓦	設計変更により保存措置を図る。

報告書抄録

ふ り が な	きょうとしないいせきしくつちょうさがいほう
書　　名	京都市内遺跡試掘調査概報　平成11年度
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	梶川敏夫・長谷川行孝・馬瀬智光・堀　大輔
編 集 機 関	京都市埋蔵文化財調査センター
所　在　地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
発 行 機 関	京都市文化市民局
所　在　地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
発 行 年 月 日	西暦2000年3月31日

所収遺跡名	所　在　地	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
北白川廃寺跡	京都府京都市左京区 北白川大堂町	26100		35度 1分 42秒	135度 47分 40秒	1999/10/14	43	事務所
白河街区跡	京都府京都市左京区 岡崎入江町	26100		35度 0分 53秒	135度 47分 12秒	1999/6/30 7/19・7/22	100	集合住宅
六勝寺跡 法勝寺跡	京都府京都市左京区 岡崎法勝寺町	26100		35度 0分 37秒	135度 47分 23秒	1999/7/7	24	個人住宅
山科本願寺跡	京都府京都市山科区 西野左義長町	26100		34度 58分 38秒	135度 48分 38秒	1999/10/28	28	宅地造成
中久世遺跡	京都府京都市南区 久世殿城町	26100		34度 57分 18秒	135度 43分 5秒	1999/8/2	80	宅地造成

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北白川廃寺跡	寺院跡	飛鳥～平安時代	寺域南限溝か		
白河街区跡	街区跡	平安時代	井戸・土壙	土師器	
六勝寺跡 法勝寺跡	寺院跡	平安時代	地山の落ち込み	土師器・軒瓦・平丸瓦	
山科本願寺跡	寺院跡	室町時代	土塁・土壙	土師器	
中久世遺跡	集落跡	弥生時代	土壙・溝・柱穴群	磨製石斧・石包丁・ 弥生土器	設計変更により保存措置を図る。

図　　版

凡　例

平成11年試掘調査地点

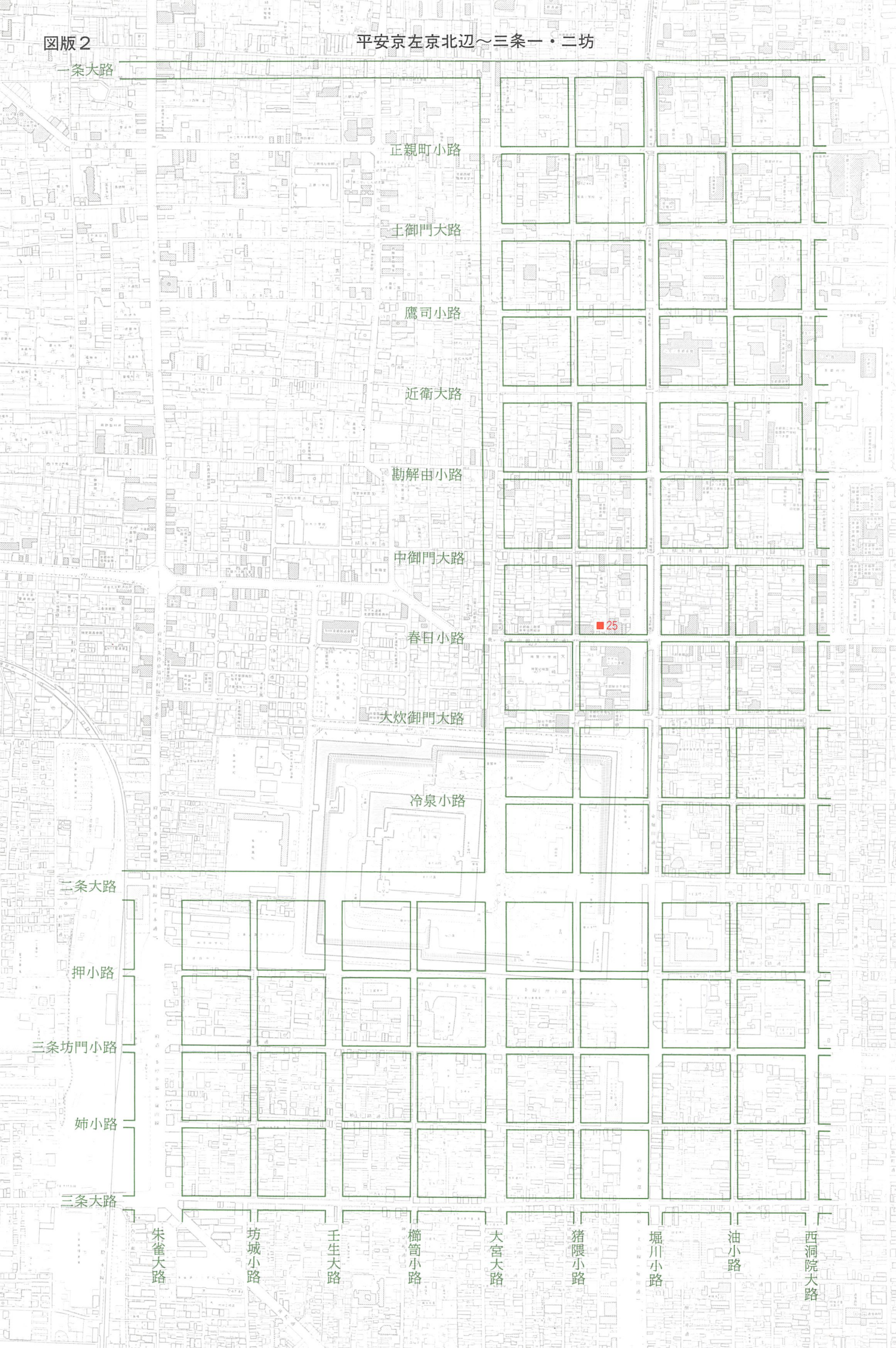
□　1月～3月　　■　4月～12月

－－－－－　遺跡範囲

平安宮
漆室
兵庫寮
大蔵
大蔵
主殿寮
茶園
正親司
大蔵省
大宿直
内教坊
右近衛府
図書寮
掃部寮
内蔵寮
縫殿寮
梨本
左近衛府
職御曹司
内膳司
内裏
武徳殿
宴の松原
右兵衛府
真言院
中和院
南所
左兵衛府
内匠寮
造酒司
西雅院
東雅院
内舎人
中務省
陰陽寮
西院
主水司
大膳職
典薬寮
左馬寮
御井
豊楽院
朝堂院
太政官
宮内省
大炊寮
治部省
民部省
廩院
神祇官
右馬寮
刑部省
弾正台
兵部省
式部省
侍従厨
雅楽寮
1
21
22
23
24

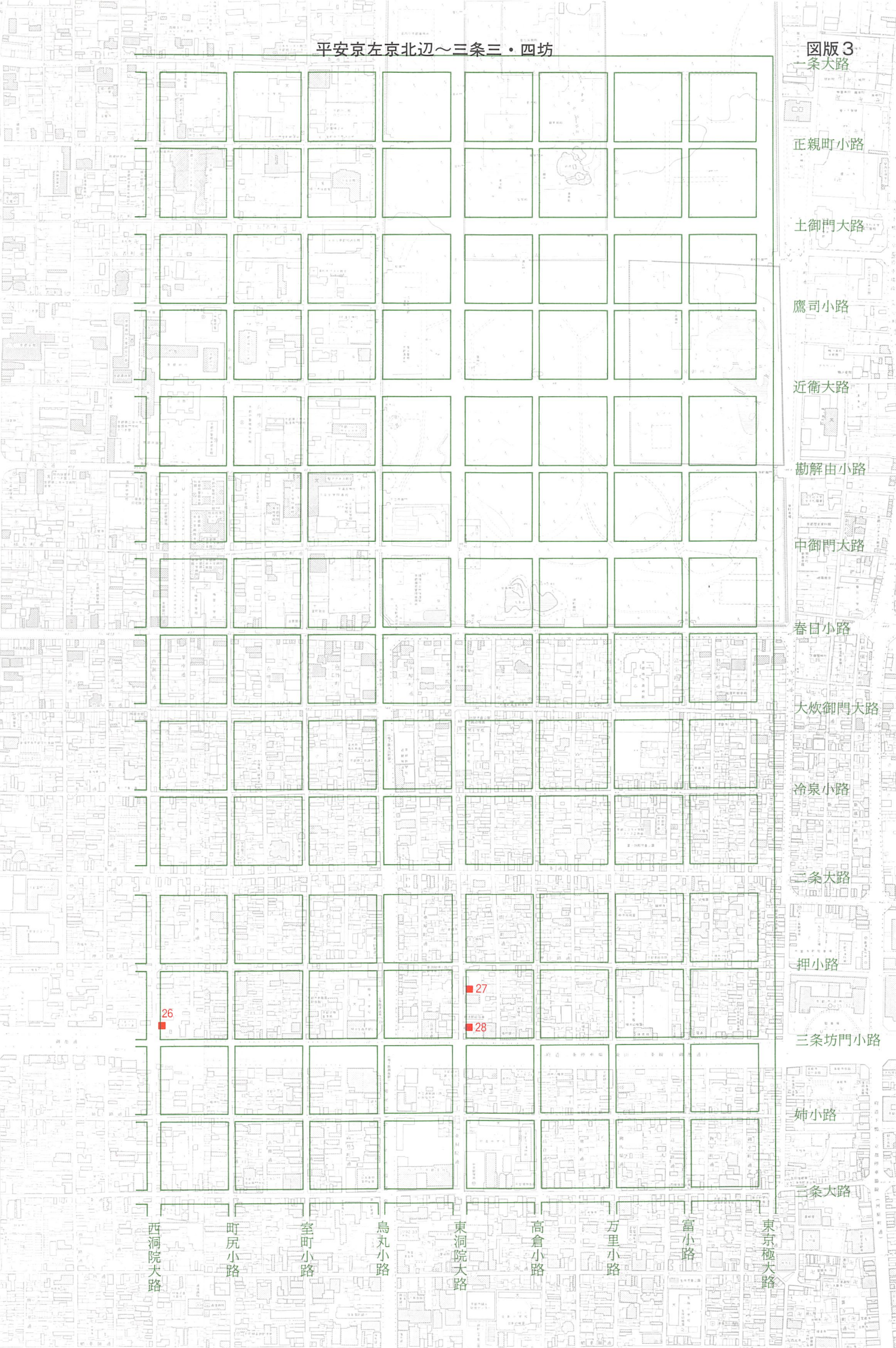
図版２

平安京左京北辺～三条一・二坊



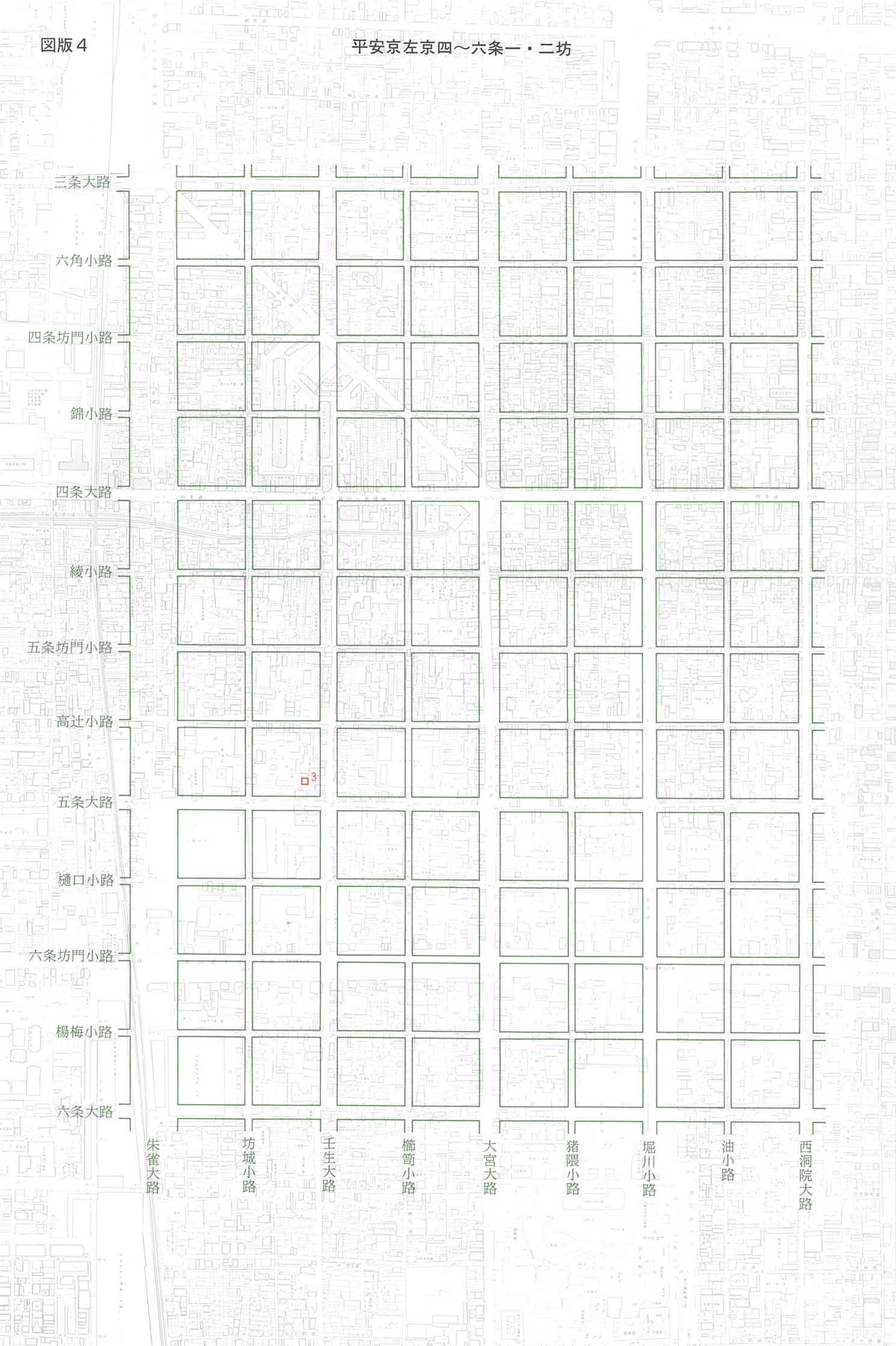
図版3

平安京左京北辺～三条三・四坊



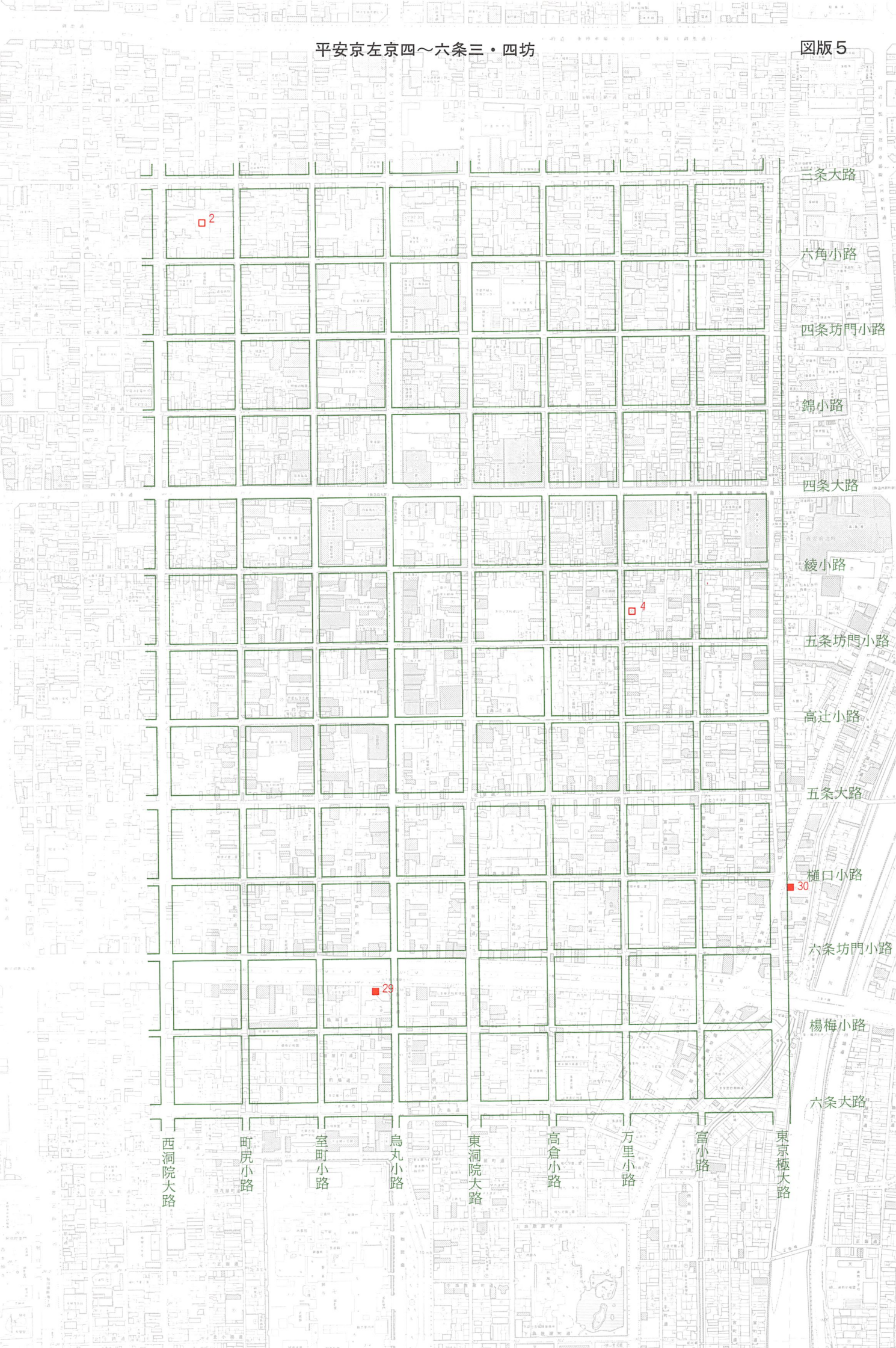
図版４

平安京左京四～六条一・二坊



平安京左京四～六条三・四坊

図版５

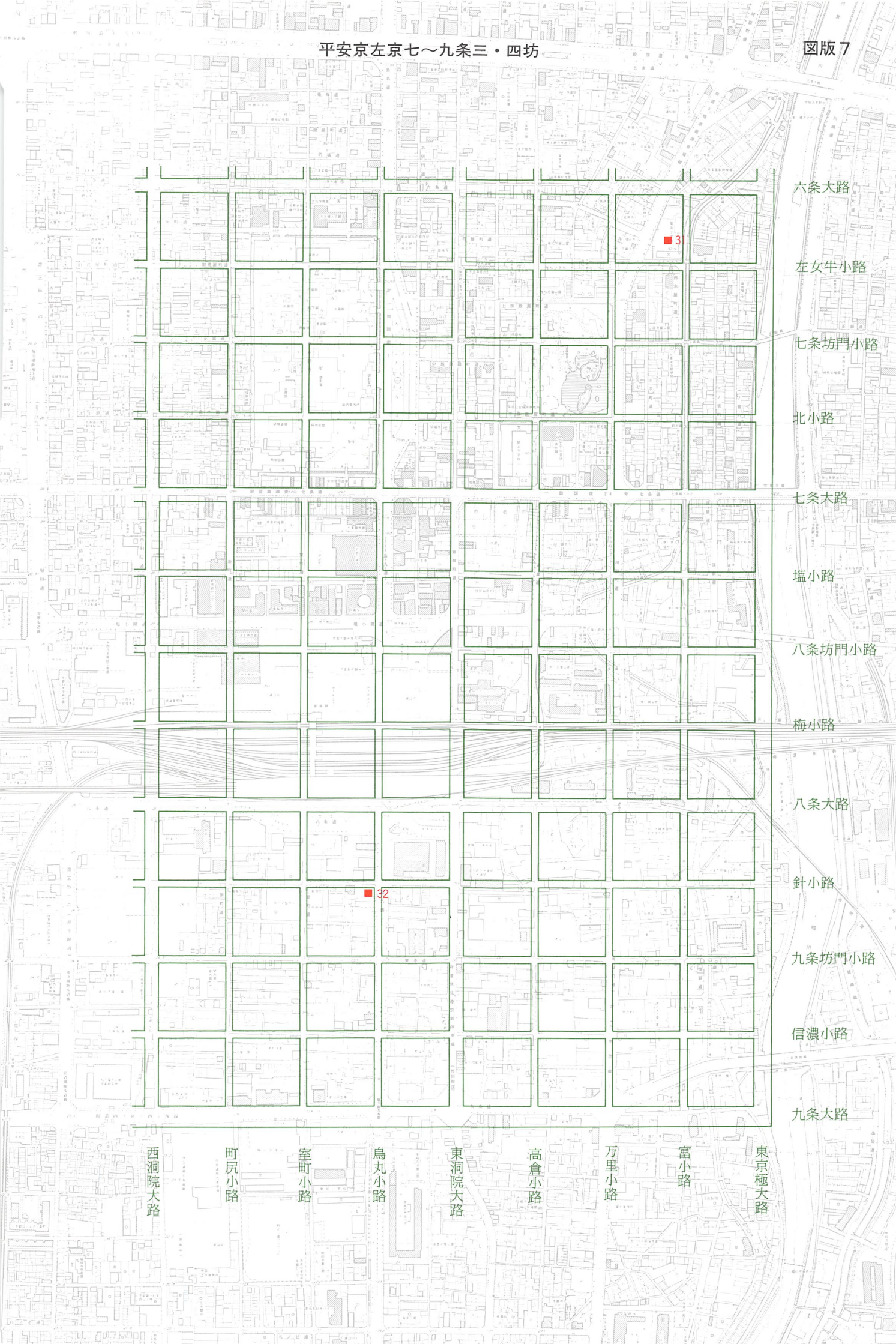


図版6

平安京左京七～九条一・二坊

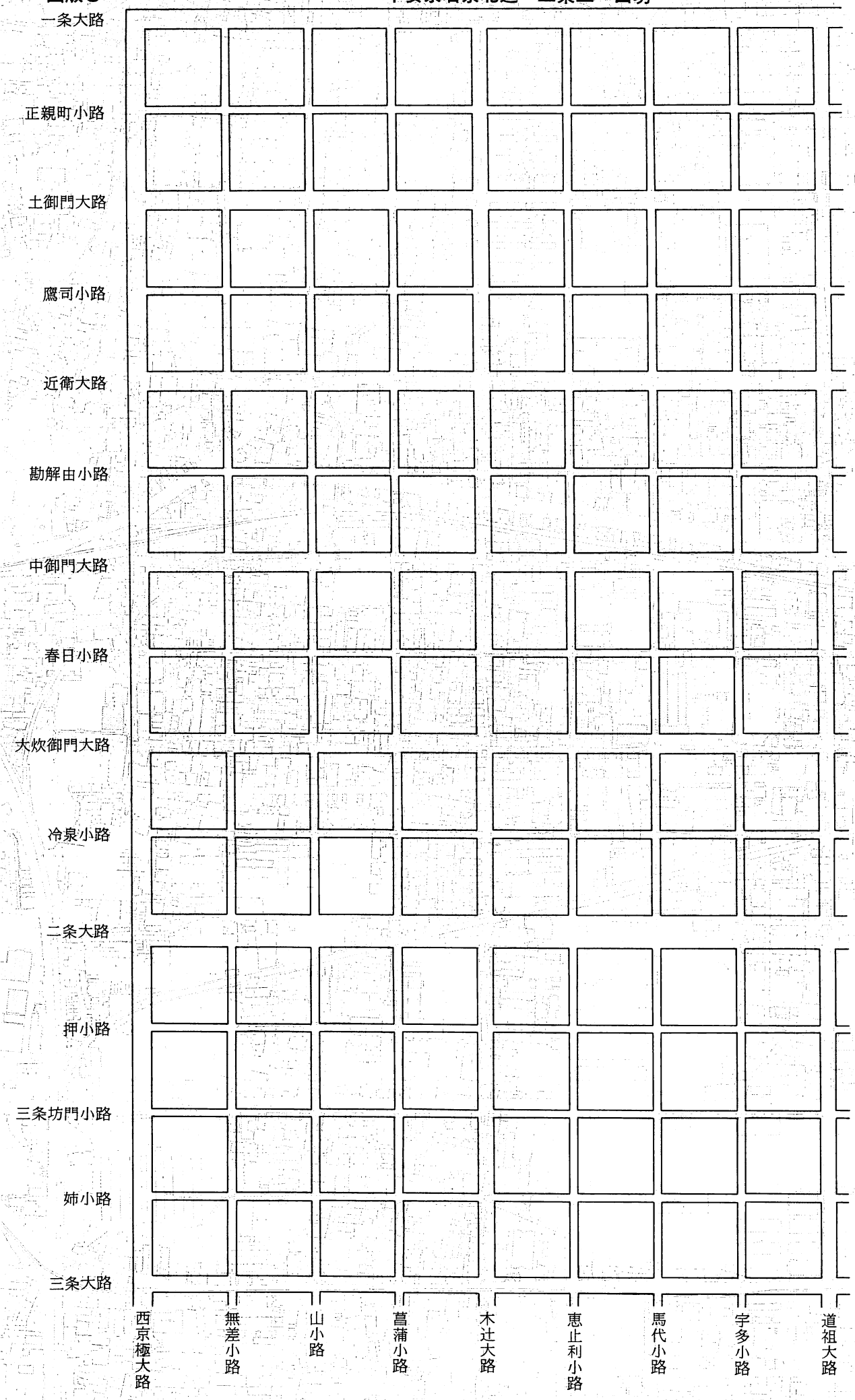
平安京左京七～九条三・四坊

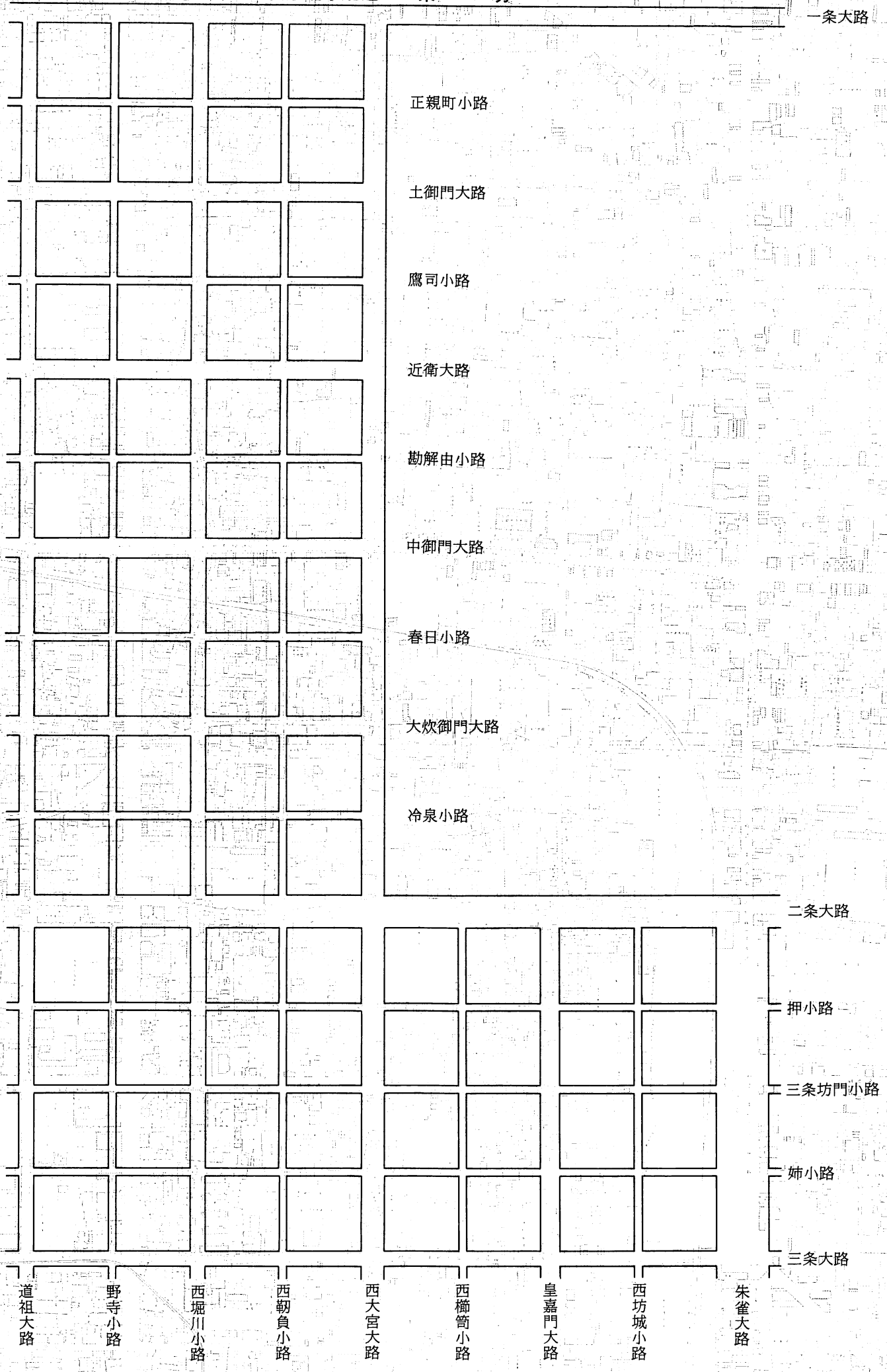
図版7



図版8

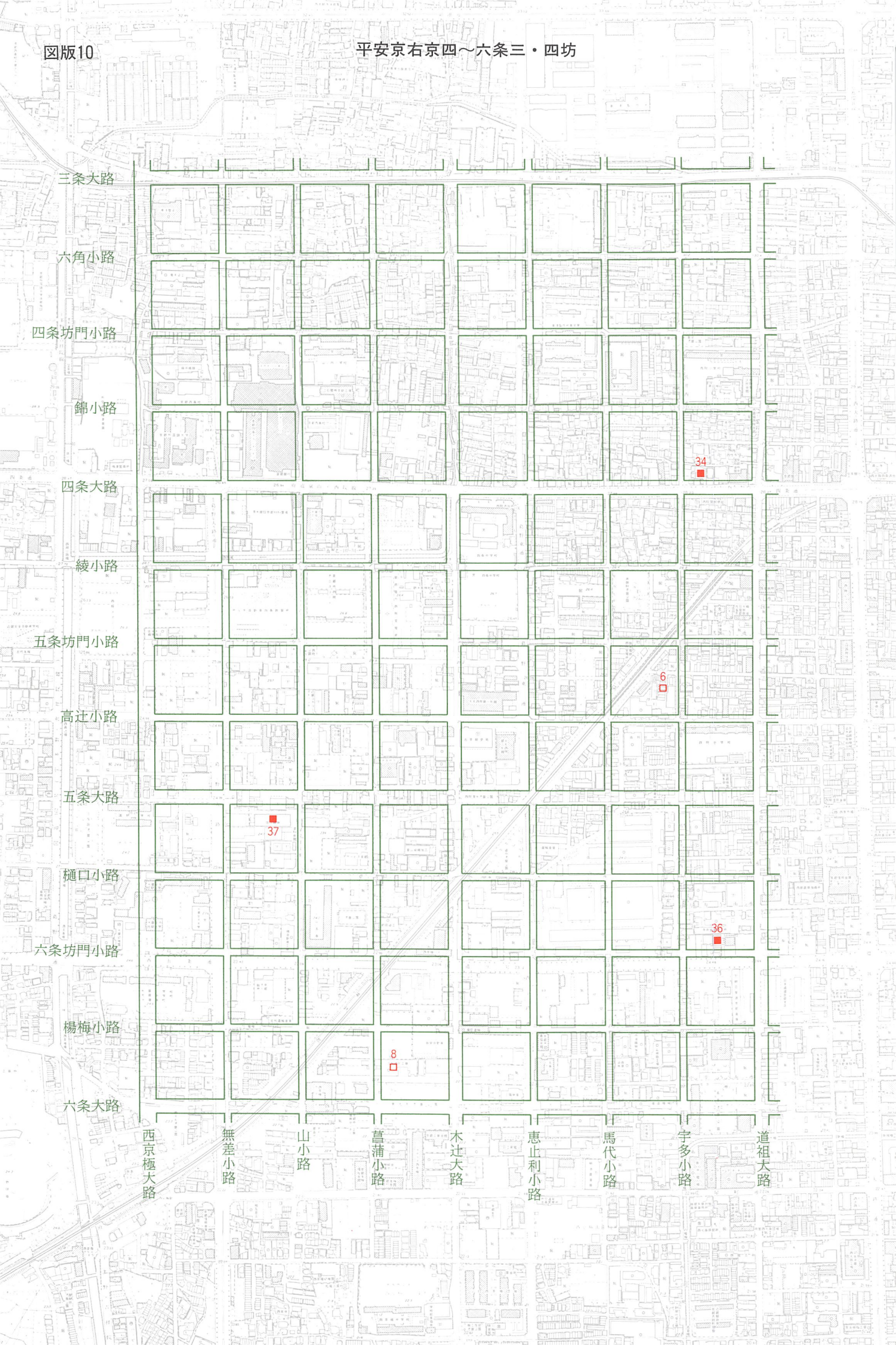
平安京右京北辺〜三条三・四坊




一条大路
正親町小路
土御門大路
鷹司小路
近衛大路
勘解由小路
中御門大路
春日小路
大炊御門大路
冷泉小路
二条大路
押小路
三条坊門小路
姉小路
三条大路
道祖大路
野寺小路
西堀川小路
西靭負小路
西大宮大路
西櫛笥小路
皇嘉門大路
西坊城小路
朱雀大路

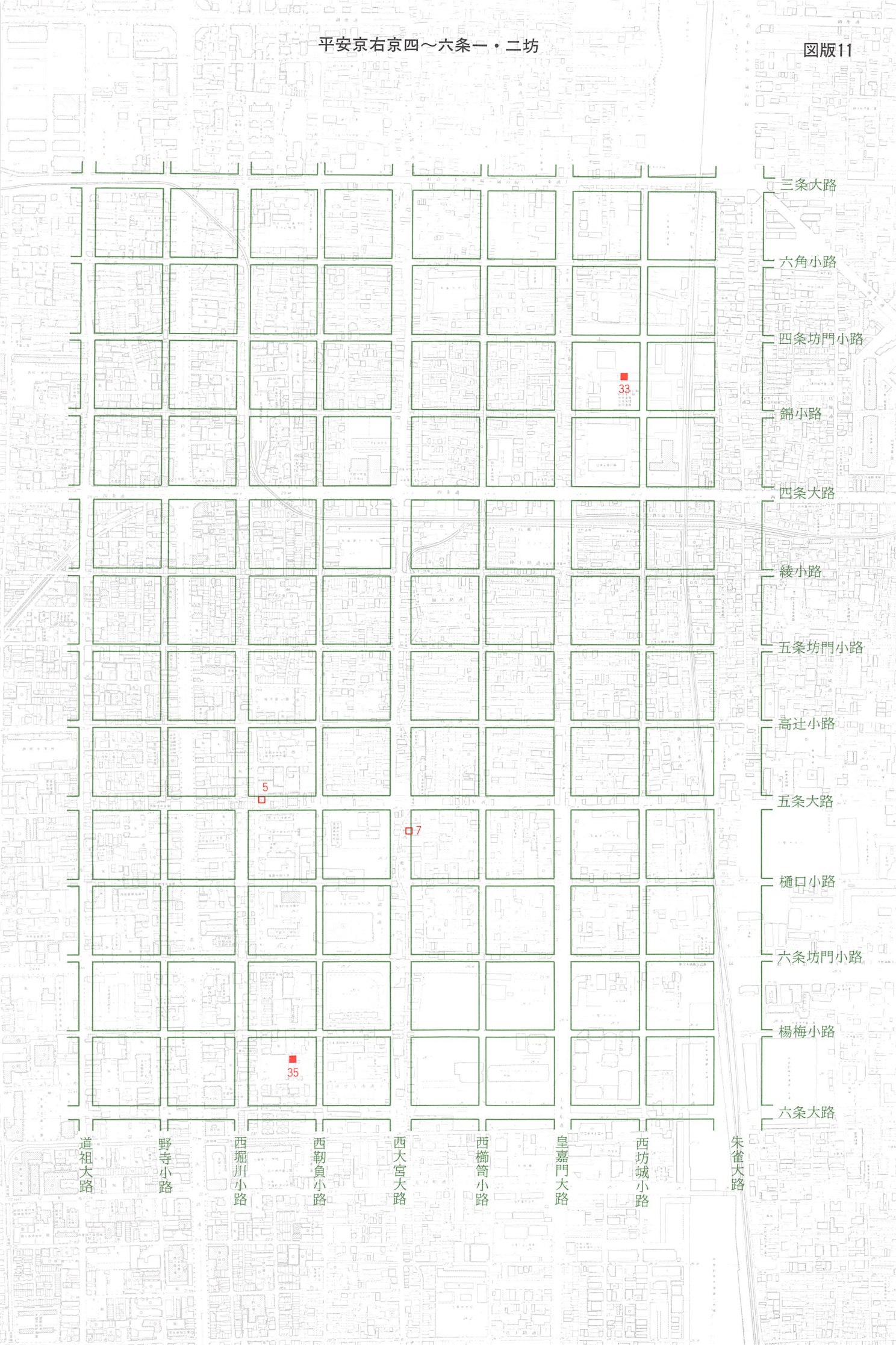
図版10

平安京右京四～六条三・四坊



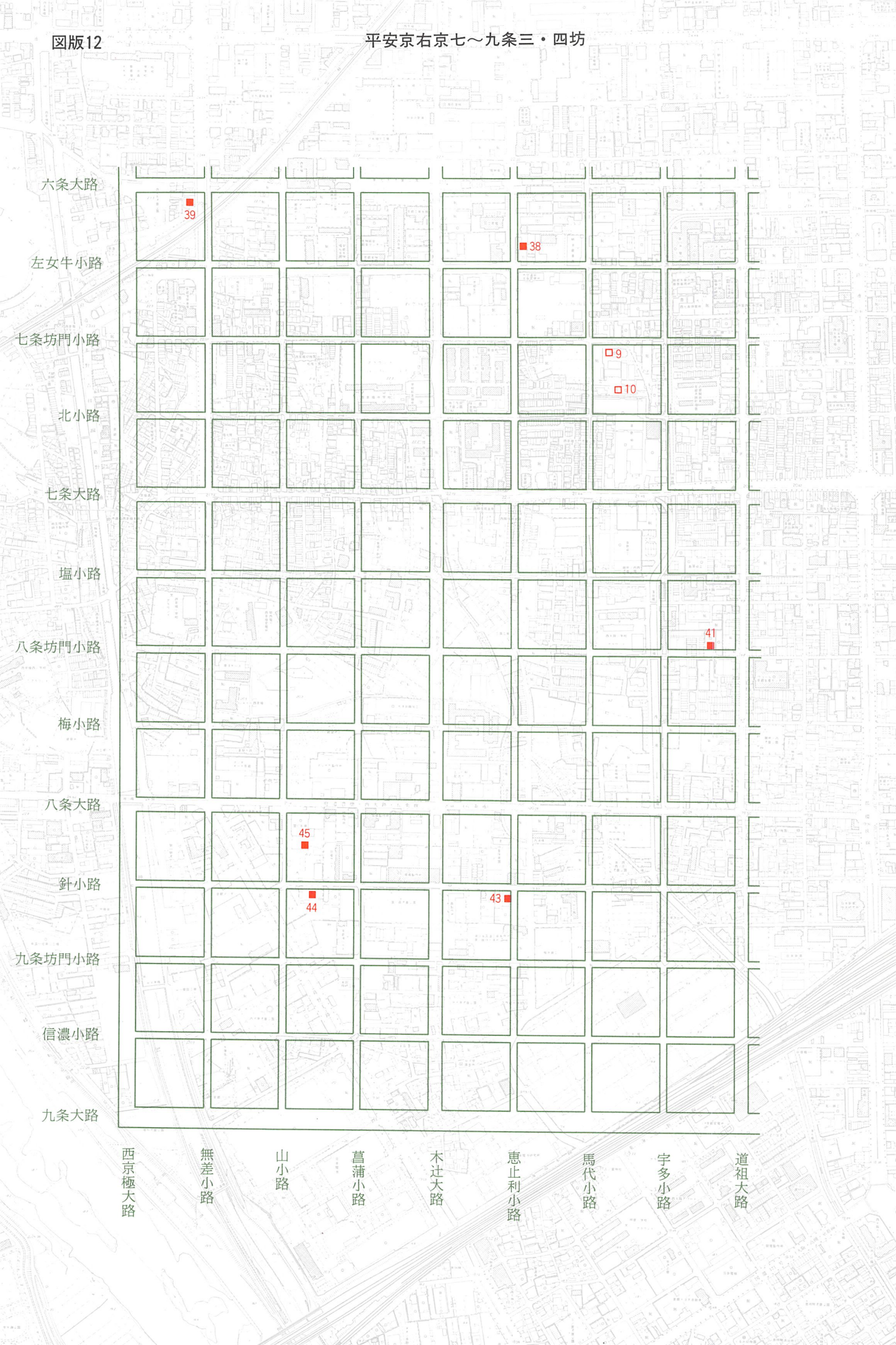
平安京右京四～六条一・二坊

図版11



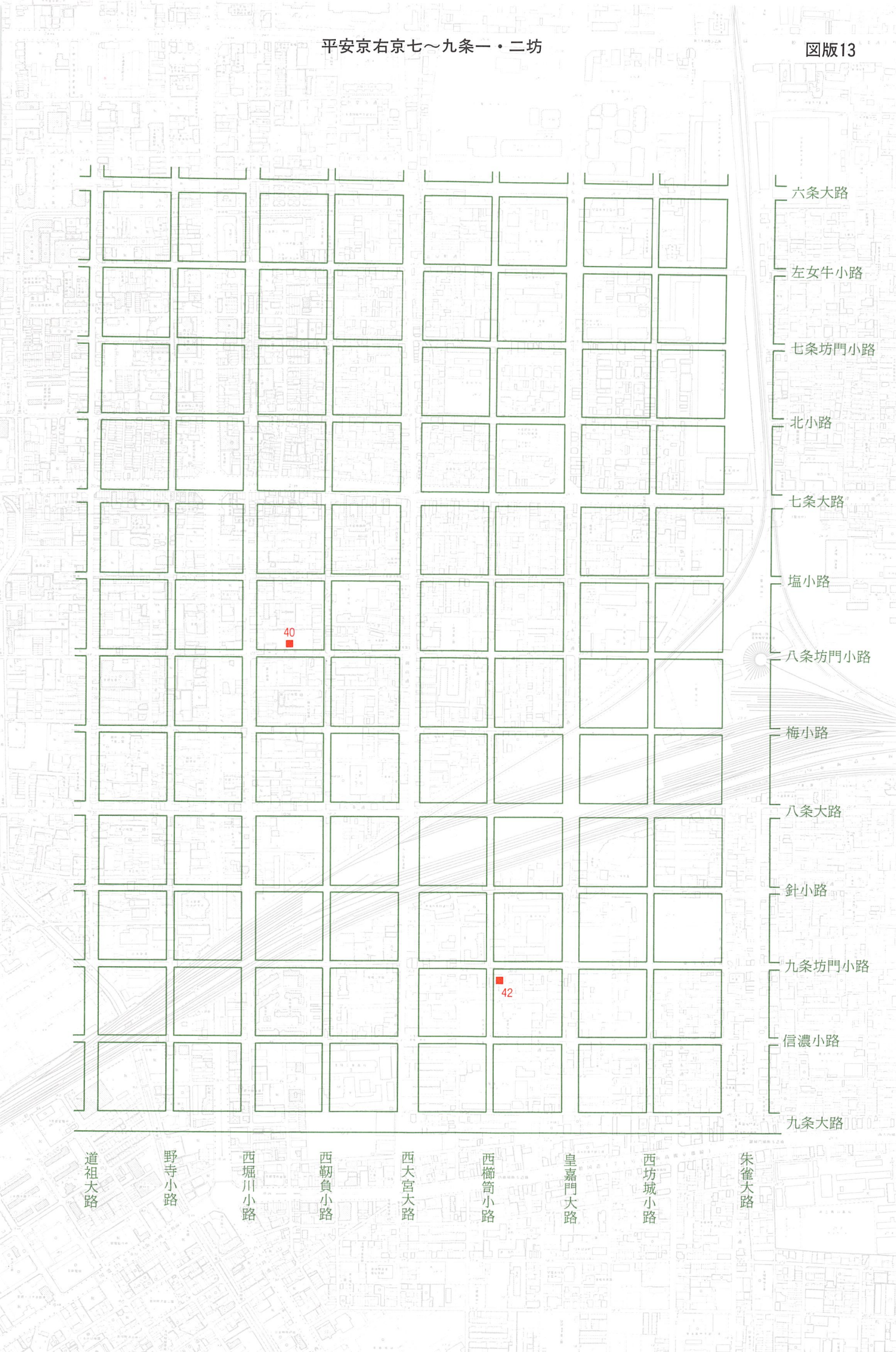
図版12

平安京右京七～九条三・四坊



平安京右京七～九条一・二坊

図版13



図版14

植物園北遺跡

13

12

51

中の谷窯跡

48

木野窯跡

北野遺跡

52

北野廃寺跡

49

50

上総町遺跡

上終町遺跡

北白川廃寺跡

54

53

小倉町別当町遺跡

白河街区跡

55

岡崎遺跡

56

山科本願寺跡

60

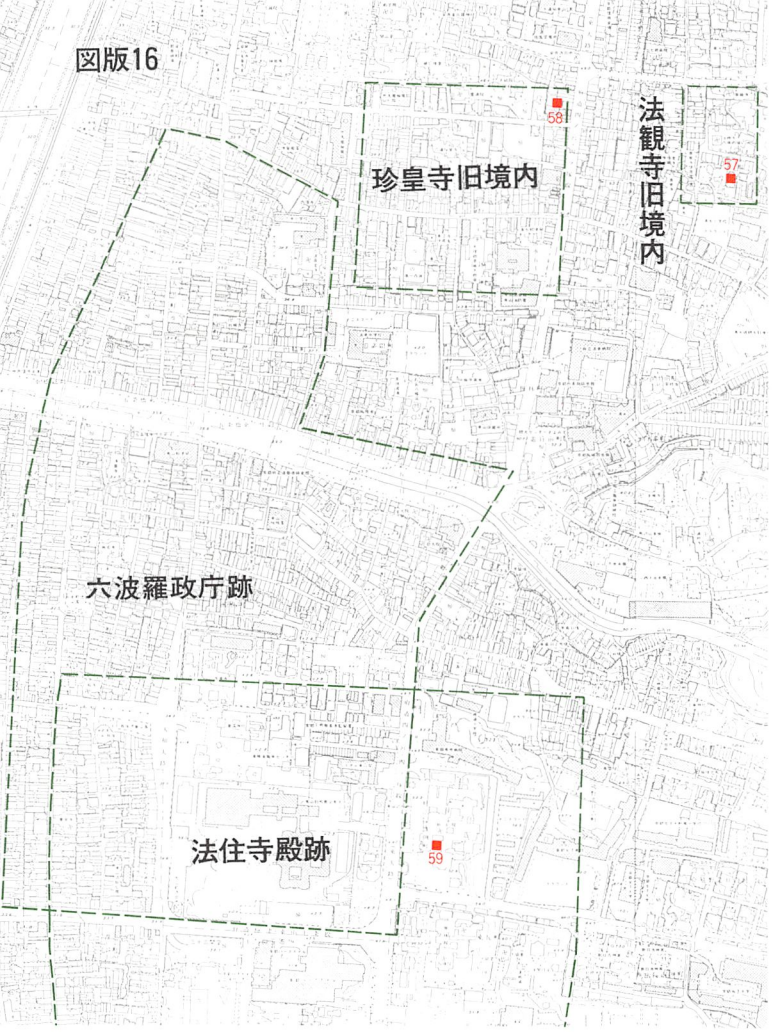
14

61

15

中臣遺跡

図版16


58
珍皇寺旧境内
法観寺旧境内
57
六波羅政庁跡
法住寺殿跡
59

山越古墳群
46
広沢池遺跡

47
門田町遺跡

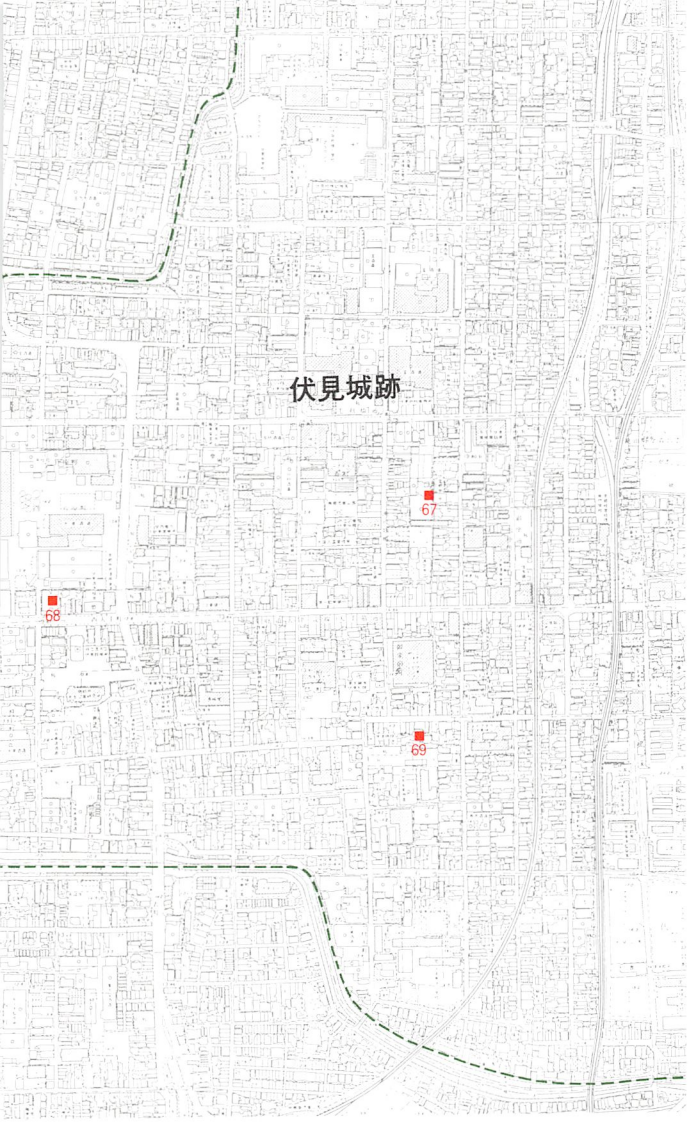
11
史跡名勝嵐山

福西古墳群
82

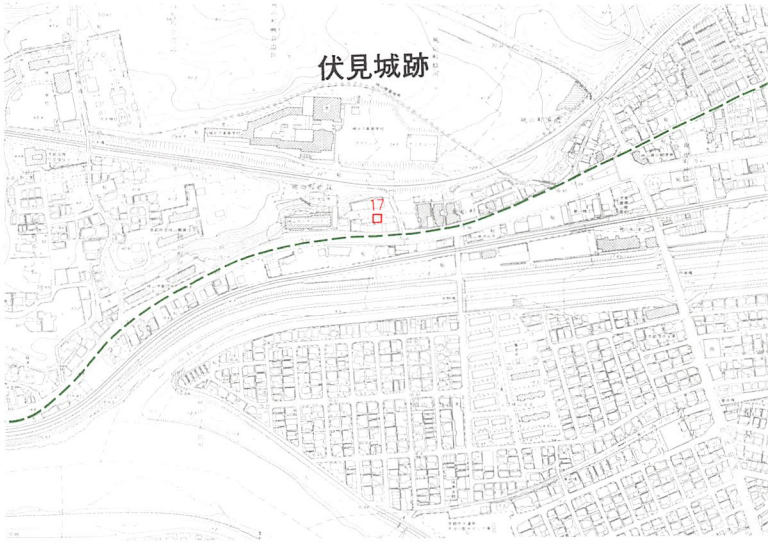
79
上久世遺跡

81
80
中久世遺跡
大薮遺

図版17


伏見城跡
67
68
69

伏見城跡
16
66


伏見城跡
17

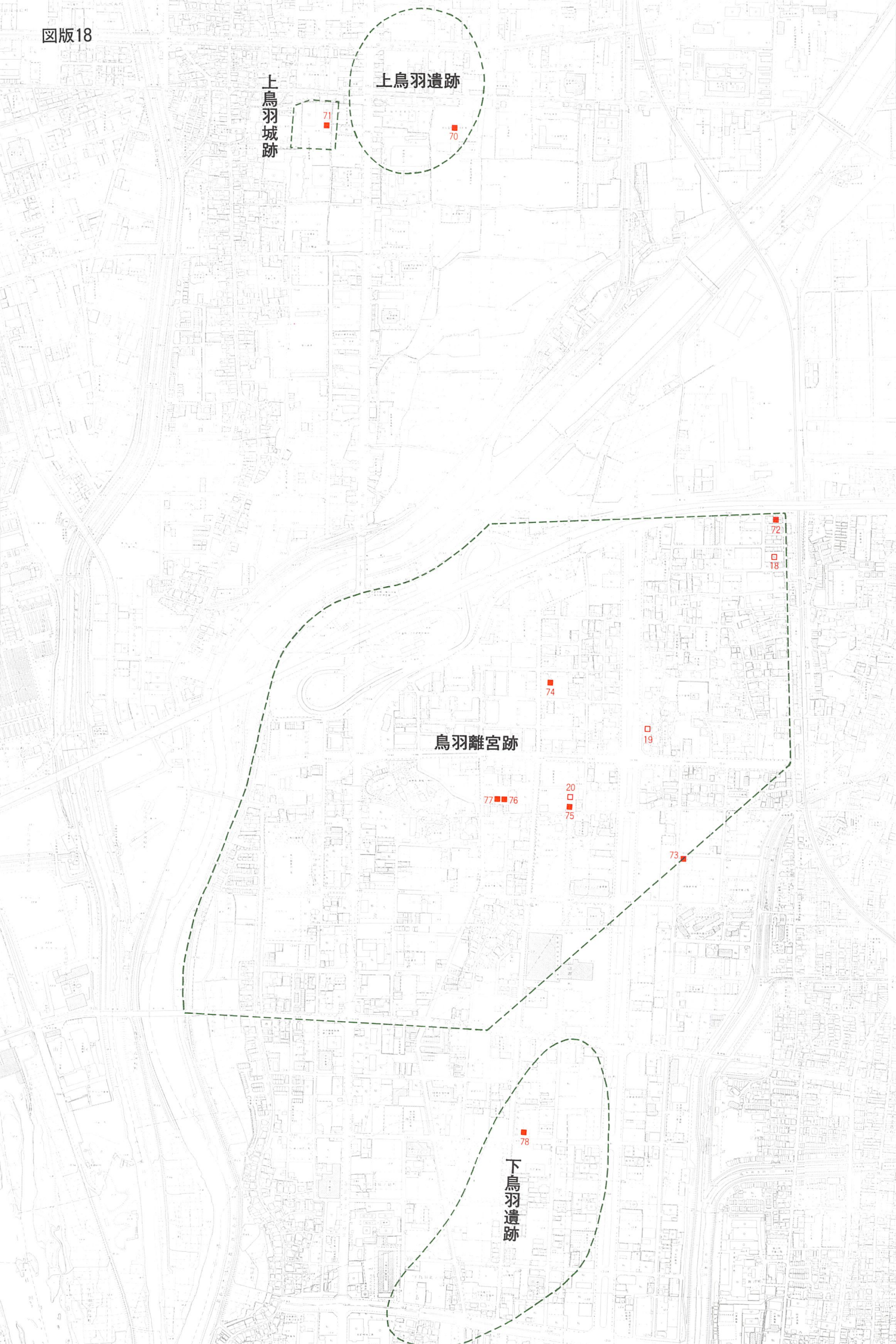
醍醐古墳群
63

深草寺跡
62
西飯食町遺跡
65

醍醐寺境内
64

長岡京跡
85
86

図版18



図版19

京都市内遺跡試掘調査概報

平成11年度

発行日　2000年3月31日
発　行　京都市文化市民局
編　集　京都市埋蔵文化財調査センター
住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
TEL.（075）441-5261
印　刷　株式会社エッグズ　TEL.（075）595-0241